

熊本市歯科医師会会誌

第 2 7 号



Vista Park(Sanfransisco)

1978. 4

目 次

巻 頭 言

今回の医療費改訂について	熊本市歯科医師会 専務理事 山 室 紀 雄	2
--------------	-----------------------	---

勉 強 部 屋

地域医療機関をどの様にするか (大都市歯科医師会の対処と考え方)	広報委員会編	3
今後の歯科医療の展望について	広報委員会編	4

展 望 室

20年をふり返って(2)	広報委員会	8
医療の現状	広報委員会編	13

本 日 休 診

支部だより 西部支部会旅行記	上 村 次 郎	16
クラブチャンピオンになって	斉 藤 健	18

茶 の 間

新春会員懇親パーティ開催	会員福祉委員会・広報委員会編	20
私の青春時代	林 正 之	26
短 歌	藤園中学教諭 北 島 照 明	29

Dining Room

基金通報より		30
--------	--	----

おげんきですか		34
---------	--	----

作 業 部 屋

会務報告、庶務報告		43
昭和52年度熊本市歯科医師会才入才出現況		46
昭和53年度熊本市歯科医師会才入才出予算案		47
昭和52年度熊本市歯科医師会共済会才入才出現況		48
熊本市歯科医師会財産(備品)目録		48

告 知 板

新入会員紹介		49
--------	--	----

歯科関係雑誌目次一覧		51
------------	--	----

今回医療費改訂について

熊本市歯科医師会 専務理事 山 室 紀 雄



今回の医療費引き上げは皆様御存知の様に約一年六ヶ月ぶりに実施されたものでありますが、物価や、人件費の上昇に対応した改定であります。又世論の批判を浴びた歯科差額問題解決への第一歩として、前歯歯冠修復に貴金属を使用する場合「材料差額方式」がとり入れられ、いわゆる「保険外負担」を解消する方向へとうち出されて来た訳であります。又これまで保険の対象外であった歯科の技術九項目も保険に導入されて来ました。材料差額につきましては、数年来問題にされて来たところではありますが、一応今回の改定にかぎり、日歯の満岡、田所両中医協委員の最大限の努力により、我々歯科界にとっては最小限の犠牲にとどめられた訳であります。技術料につきましては、関係新聞、あるいは我々が実際に点数表に目を通して、たしかに今回の改定点数以上のプラスアルファをもたらすことであろうと言う推測が出来る訳であります。しかしながら例えば「根管形成」あるいは「加圧根充」と言うような新設項目は、その考え方や、運用によっては新たな問題も起きて来るのではないかとと思われる訳であります。この事については日歯の言っている様に従来のような一部の安易な診療内容ではなく歯科医が技術と誇りをもって「国民の為の医療」という事を真剣に考えなければならない大きな転換期を迎えているのではないのでしょうか。新設項目にどのようにとりくむか、このことは命令でもなければ強制でもなく、ようは我々歯科医師個人の自覚と良識以外の何ものでもありません。この自覚と良識が現在のきびしい情勢からやがては将来の歯科界に良い結果をもたらすと共に、いつの日か思い切った抜本改正の行なわれる事を期待しつつ会員皆様の御健闘を祈ります。

地域医療機関を どのようにするか



大都市歯科医師会の 対処と考え方

広報委員会編

地域における医療の適正な配分、つまり医療機関の適正配置については、いろいろ言及されている所である。大都市においては勿論、中都市においも、その処置に苦慮するところがみられる。

熊本市歯科医師会の広報委員会による昭和51年夏の会員へのアンケート調査でも、適正配置を歯科医師会として考えるべきだ、とする答は、回答の過半数をこえている現状である。従がって本会もこれを考えなければならない時点にきていると思われる。

歯科大学の増加、大学定員の増加と、歯科医師の卵は、一時代前より考えると、数倍の多くなり、年々卒業生、つまり歯科医師は増加している。一方一般経済は、オイルショック後、停滞をよぎなくされ、その需要の増大はあまりみられない。これらのことより、地域によっては、きわめて深刻な歯科医療需給のアンバランスが生じると思われる。

これらのことを考える時、大都市ではこの問題をどのように思い、対処しているのか、そこで、それを知る資料として次のものをみてみたいと思う。

昨年10月22日に、川崎市において、第10回九大市歯科医師会役員連絡協議会が、横浜、名古屋、神戸、広島、福岡、北九州市、札幌、仙台、川崎の市歯科医師会役員の出席により開催されている。この協議会の協議議題として、「地域における適正な医療の配分について」が取り上げられ、その中で、

「歯科医療の需要と供給について」大都市の各市歯科医師会の見解が述べられているので、これを資料としてみてみたいと思う。

歯科医療の需要と供給について

札幌市：糖過剰摂取、厚生行政の立ち遅れ等により、ウ蝕が多発化し、口腔医療は増大している。一方、需要は医師不足、時間不足等の医療の量のみの対策が行われて、その結果都市での歯科医師の過密、他地域での過疎が見られる現状である。札幌歯科医師会ではその責任において、診療所の適正配置を行っている。しかし、量のみを増大させて、保険制度を現状のまま放置すれば、需要の増大、質の低下という悪循環がおこる。これを断ち切る努力こそ、適正配分解決の根本命題である。

仙台市：会員数はここ数年来、五％前後ずつ増加している。これに相応して歯科医療機関も増加の一途をたどり、特に市中心部に集中の傾向が著しく、地域によっては需要と供給のアンバランスが心配であるという声も聞かれ始めている。しかし、まだ具体的対策は構じておらず、これから実施に移りたい。

横浜市：本会としては、適正配置に関する部門は設置していないが、五つほどの区で適正配置委員会、資格審査委員会などをもち、新入会員の適正な調整を行っている。しかし、話し合いがつかずに非会員

として開業するケースも増えている。旧市街地と新興住宅地の歯科医数の過疎、過密を生じ、地域住民数と医療機関数とのアンバランスによる「おうとつ」が生じている。

広島市：現在、広島市は広域合併の促進途上で、他都市には該当しない諸種の条件下にあり、将来の歯科医療の需要と供給のバランスについての明解を得るに至っていないが、旧広島市の現況は人口約57万人に対し、歯科医師数三百十一名であるが、広域合併55年完了時の人口は、約百万人、会員数五百名と推定される。

福岡市：医道委員会が会員増加対策を担当、このたび開業相談所を設置した。しかし、適正配置を行おうとしても、憲法第22条により保障された職業選択の自由・営業の自由があり、医療法第8条により、届け出による開業の自由が保障されている。医療供給の適正配分には、国や地方自治体の積極的介入以外には考えられないが、我々は我々の立場で、より説得力のある医療機関の適正配置の方法を、たとえ遅きに失したとしても模索する必要があるのではないかと考える。

川崎市：川崎市北部の農業地帯が次第に団地と変わり、新興住宅地が急激に出来たので人口もふくれ上がり、歯科医師数も増大している。駅の近辺等では適正配置委員会的なものができつつあり、会としては、適正配置に関することを支部長会、会報を通じて地域の実情を聞き対象している。この問題は歯科医院経営において重要な問題であるので、十分慎重に審議して行っていくべきであろう。

名古屋：都市に歯科医が集中するのは名古屋市も同じであり、五、六年前から適正配置ということが問題になって来た。しかし、名古屋市歯科医師会としては、これに関与せず、支部ごとに地域の状況に準じて規程を作成し、材料商、保健所等に提出している。開業希望者は開業以前に申し出て頂いて、支部の適正配置委員会において開業希望の先生本人を交えて話し合うことになっている。現在までのところ、これについてのトラブルは一件あったのみとなっている。

北九州市：これについては、医療国営に参加するか、資本主義社会の改革的思考を求める以外に対策はないと考える。本会では歯科医師会定款に基づく入会拒否に対して顧問弁護士から意見を聞いた。その結果、絶対的欠格事由として①日本の歯科医師免許を有しない者②県歯会および日歯会員とならない者、ほか。また、相対的欠格事由として①定款に規定する入会申し込み書に不備ある者②非資格者との雇用関係にある者③前所属会における義務不履行者、ほか。との結果が得られた。

神戸市：都市改造計画が十数年前から進んでおり、中心部にはビルが乱立している。そのビルに次々と歯科診療所が入って、適正配置も問題となっている。入会時にチェックポイントを設けるため、各区ごとに、その実情にあわせて規程を作っている。

また、過疎地では、人口二万五千人当たり、歯科医一人というところもあり、春秋の学校歯科検診後は、生徒の治療だけで一般住民の診療が行えないというところもある。

今後の歯科医療の展望について

広報委員会編

今後の歯科医療の情勢をみる場合、どの様にみたらいいのか、ここに日本歯科評論1977年11月号№421に、岐阜県歯科医師会理事、日本歯科医

療管理学会理事の総山和雄先生が書かれた、「将来の地域歯科医療情勢を探る一つの試み」という論文がある。総山先生の論文は、岐阜県における歯科医

療の展望であるが、岐阜県の人口が熊本県と同程度（本県約180万人、岐阜県約190万人、）歯科医師数も似ている（本県480名、岐阜県517名）ために参考になると考える。ただ岐阜県の場合、県内に岐阜歯科大学が存在するという異なる環境も考えられるが、県民総生産の経済的レベルも岐阜県の方がずっと上であることを考えると、非常に似た現状と思われる。関係のある部分を供覧したいと思う。

なお、詳細については、日本歯科評論の本文を参照されたい。

1 歯学生の父兄の家業は

岐阜県出身歯学生のうち、歯科医の子弟は24.04%と以外に少なく、（図3一同D-）、医師・薬剤師・その他医療関係従事者の子弟を合計しても全体の約1/3であった。近年、歯科大学が相次いで新設され、全歯学生の約2/3は歯科医療に全く関係のない家庭の子弟に門戸が開かれているのである。医・歯科大学入学問題に関連して「歯科大学入学が大部分歯科医の子弟で占められている」といって、「医業の世襲制排除」を唱える向きもあるが、それは全く当たらない。

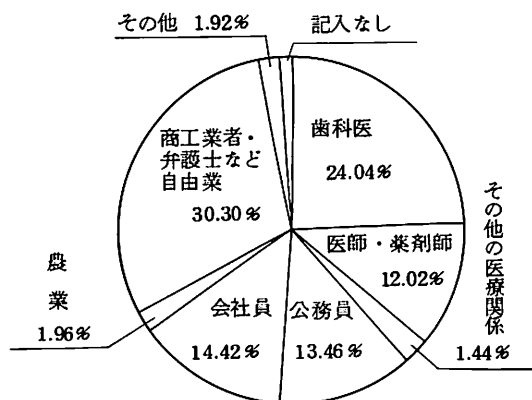


図3 在学生の父兄の職業

2 歯学生は卒業後どんな道を歩むか

歯学生が大学卒業直後に選ぶ進路を図4一同E

ーに示したが、「病院診療所に勤務する」とする者は予想されたとおり37.50%で最高であった。

このように診療所に勤務する者の大部分は、何年か実地修練ののちに開業しようとする人たちであろう。現在、各歯科大学では基礎医学から保存、補綴、口腔外科、矯正を初め各科をすべて細分科して教育が行われている。しかし最近は、「もう一度歯学教育を見直し、細分科して教育した歯科医学を卒業前に統合して、再認識させるような総合歯科医学教育をしよう」という提案が多くの学者から出されている。ただ、その教育機構がまだ完成していないところから、開業医としての実地修練の場を病院、診療所に求めることは当然である。

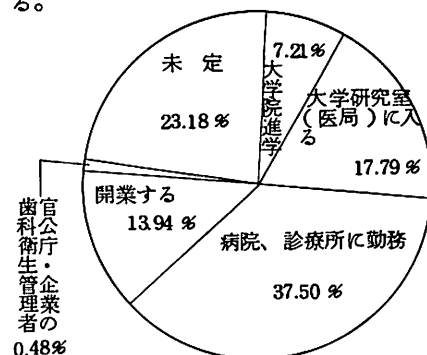


図4 卒業後の方針別比較

3 何%が開業するか

在学中における方針は前項のとおりであっても、岐阜県出身の歯学生が卒業後実際にどのくらい開業するかについては、次項以下の基礎資料が示している。開業の点については図5一同F-にあるように、大部分の学生、つまり89.90%までが結局は開業するつもりでいる。記入なし 2.41%

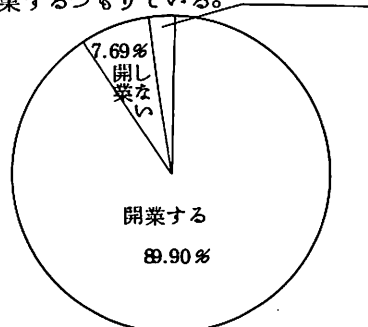


図5 将来開業予定の有無

4 岐阜県の歯科医療需給関係は今後どう変わるか

歯科医師 1 人当たり県民数の推移

昭和 6 0 年までの県民総人口、歯科医師会会員数、および、それをもとにして算出した歯科医師会会員 1 人当たり県民数の推移は表に示したとおりである。

各年次別岐阜県民人口と歯科医師会会員との
人口対比表（各年とも 4 月 1 日現在）

	県民総人口	歯科医師 会会員数	歯科医師会会員 1 人当たり県民人口			県民総人口	歯科医師 会会員数	歯科医師会会員 1 人当たり県民人口	
昭和 44 年	1,761,663	467	3,772	実 績 数	昭和 52 年	1,896,900	537	3,532	予 測 数
45	1,768,893	463	3,821		53	1,914,500	549	3,487	
46	1,776,189	482	3,685		54	1,932,300	562	3,438	
47	1,795,448	494	3,635		55	1,950,300	596	3,272	
48	1,818,712	499	3,645		56	1,968,400	634	3,105	
49	1,844,358	501	3,681		57	1,986,700	665	2,988	
50	1,861,218	510	3,649		58	2,005,200	701	2,860	
51	1,879,461	517	3,635		59	2,023,800	738	2,742	
					60	2,042,600	765	2,670	

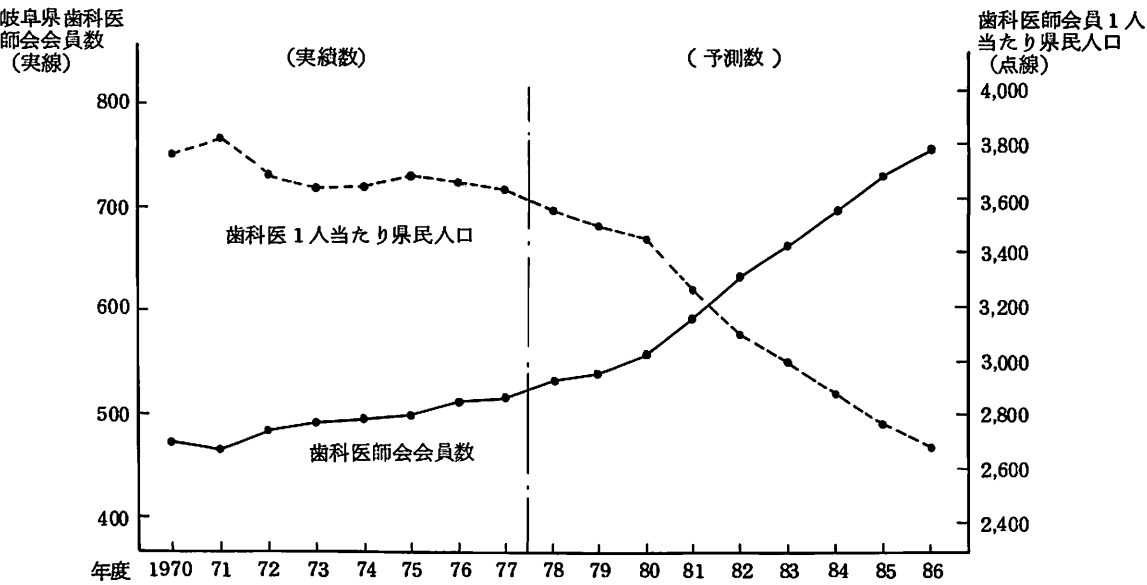


図 12 岐阜県歯科医師会会員数の年次変化と会員 1 人当たり県民人口の変化、表 2 をグラフ化したもの
（各年とも 4 月 1 日現在）

歯科医療需要バランスは今後どのように変わるか

昭和50年代後半から急激に増加する歯科医師も、前に述べたように、市街地に集中し、町村地域は依然として歯科医不足が続くであろうと考えられる。この傾向は、筆者がすでに行った2報告『岐阜県歯郡市支部別の会員平均年齢から見た地域歯科医療事情』からも裏付けられている。

一方、住民が自己防衛策として予防歯科衛生に徹底する時代は、いずれ必ず到来するし、長期的には革命的な齲蝕予防法が発見されることもあろうと考ええると、歯科医療需要量も昭和50年代前半の現在がピークといえるのではなからうか……。

このような歯科医療需要量の今後の減少は、歯科医療内容の多様化、週休2日制の実現、労働時間の短縮、など医療供給量の減少を考慮に入れても、昭和60年代後半には相当極端な歯科医師過剰時代になる可能性がある。

医療は、とくに高い倫理観と医学知識技術が要求

されるのは当然であるが、有能な医療従業員のチームワークを確保するための人件費や、近代医療設備資金、また、安定した生活費などをまかなうだけの収入が保障されないほど需給バランスが逆転低下した場合には、全体的な医療水準は著しく低下する。

したがって、現在のように歯科医療需給バランスが大きく逆転しかけており、しかも市街化いかんで歯科事情に大きな格差が生じかかっている現在、慎重な配慮による歯科医師の適正配置と患者の適正配分対策をとるとともに、今から10年後を見通した歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士などの適正数を常にコントロールできる国家的機構作りが急務となるであろう。しかも、それは歯科界のみならず、政治・経済・教育・労働・科学など各界の頭脳を集めるほか、患者代表も参加した、日本の歯科医療ビジョン作りの一環として行うものでなければならぬことは、いうまでもない。



展望室



20年をふり返って

(2)

広報委員会

今回は、先号に続いて、熊本市歯科医師会20年間の活動の発展経過を、市の予算額だけに限定して、調査してみました。

なにしろ、20年前からのことで少々正確さに欠けるところもあることでしょうが、昭和33年から、昭和52年までの熊本市歯科医師会、総会の議事録を参考資料としてみました。

市歯科医師会が少ない予算の48万～100万で活動して、会の運営自体に制約をうけていた30年代、(物価指数が現在と異なりますので、その当時の予算額が現在の何百万かになるかは、正確ではありませんが、昭和35年ニッサン・セドリック1台が100万位だったと思います。)

日本経済の異常と思われる程の高度成長に併ない、我が歯科医師会も、急速に成長、膨大化し、歯科医師会館の建立までも可能とする程の120万～912万円となった40年代しかし50年代は、石油ショック以来、低成長時代、減速時代と言われるように会の予算額も、1,000～1,200万円を伸び悩んでおります。

昭和33年の予算額48万円と比べると昭和52年の予算額は、1,200万円で20年間で約25倍となっております。

これを会の事業でみますと、30年代の事業は1.公衆衛生、2.学術、3.医政、4.福祉共済、だったのが、40年代になりますと、1.学術、2.口腔衛生、3.医療保障、4.医療管理、5.広報委員、6.会員福祉、7.医政、8.学校歯科と歯科医師会の事業の方も拡大、多様化して、各委員会の構成人員も増加しており今後増々、多様化する必要があり各会員のこれまで以上の協力が必要となるでしょう。

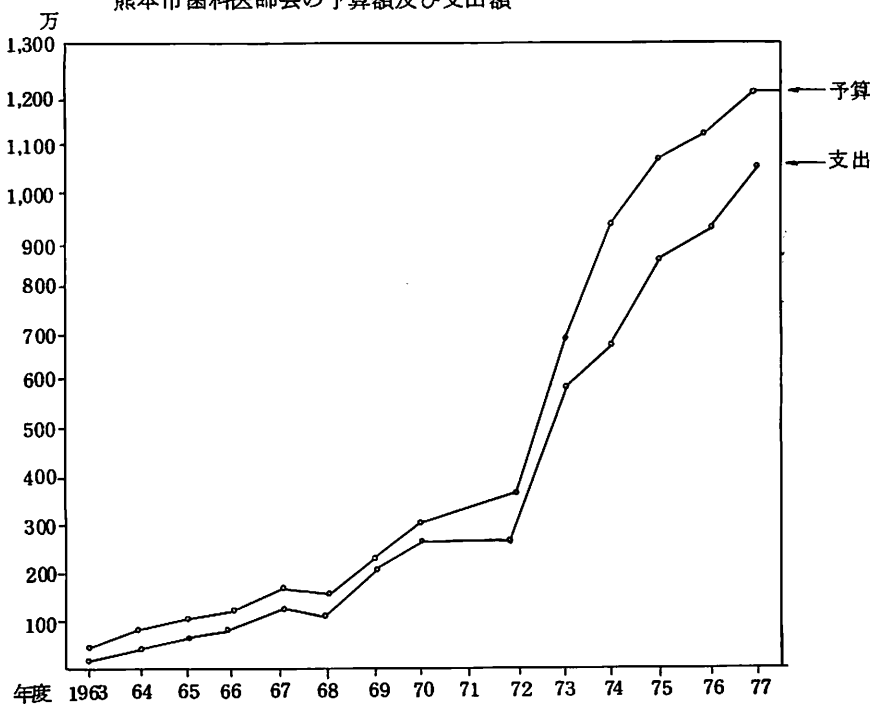
会の予算額の動きと共に、日本国の過去10年の発展の統計がありますので、各医院の20年の歩みをふりかえてみて下さい。

ああ、あの当時は、年収が少なく自動車を買えず自転車で会の総会に行ったものだ……、テレビがなくて、隣りの家や学校に、『力道山』のプロレスを見に行ったものだ……、家にも電話を入れてみようなどといういと苦勞されてこられた諸先生の想い出がありますことでしょう。

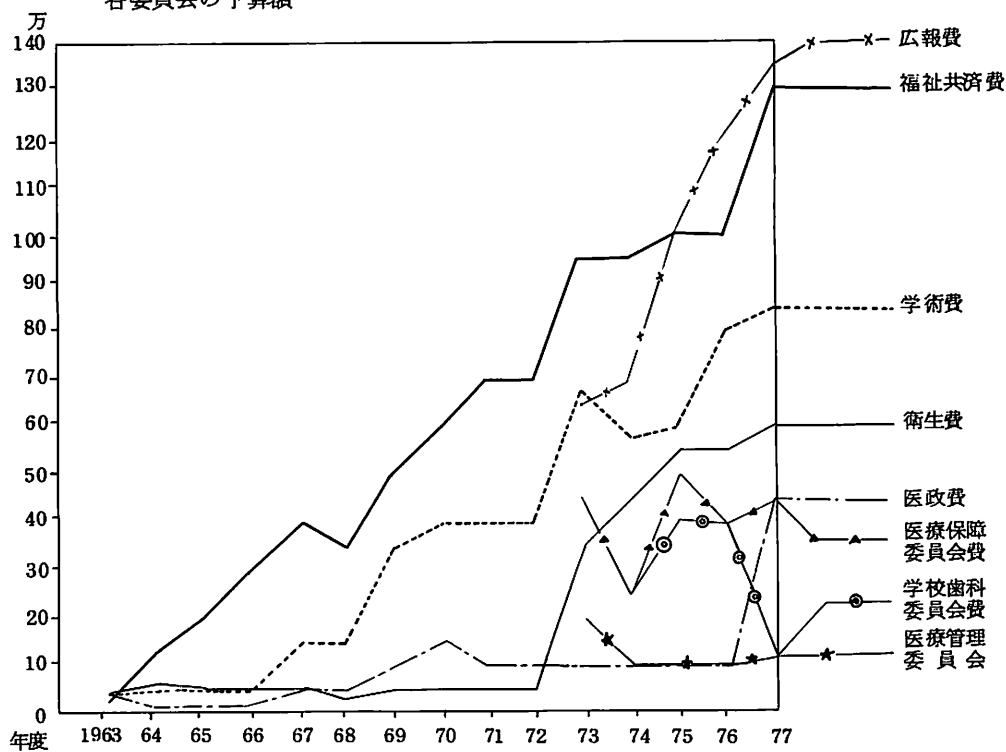
私(現34才)は、昭和34年急行「あそ」で23時間かかり、蒸気汽関車で、車中ス・スだらけで東京まで、上京した想い出があります。現在飛行機に乗り2時間位で東京まで行けるこの昭和53年を、ふりかえて歯科界も電気エンジンからエアー・タービンと20年の時の移り変りの速さに大変な驚きと戸惑いをもっております。

文責	緒方進	電岡浩雄
	坂本憲昭	緒方孝則

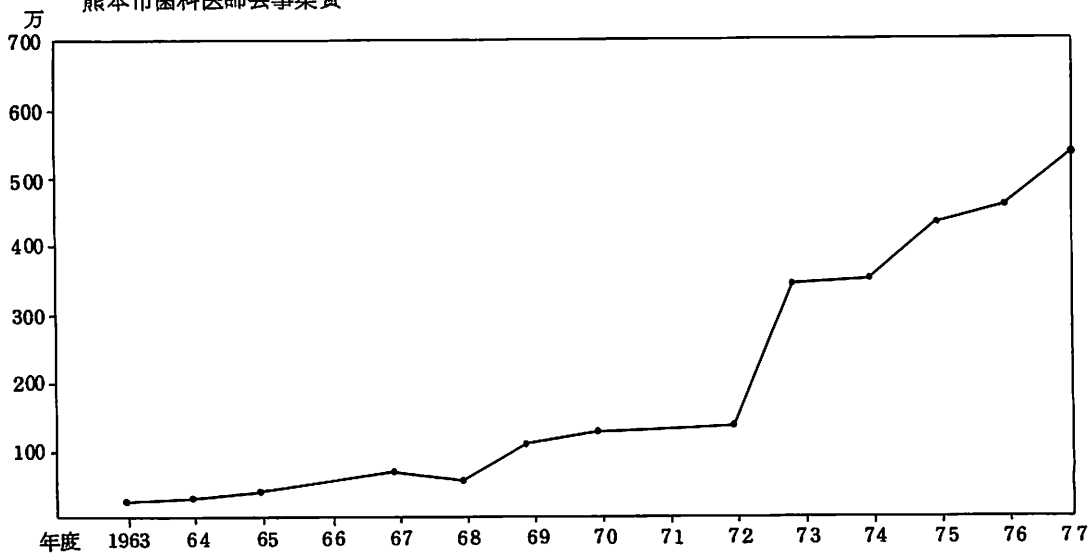
熊本市歯科医師会の予算額及び支出額



各委員会の予算額

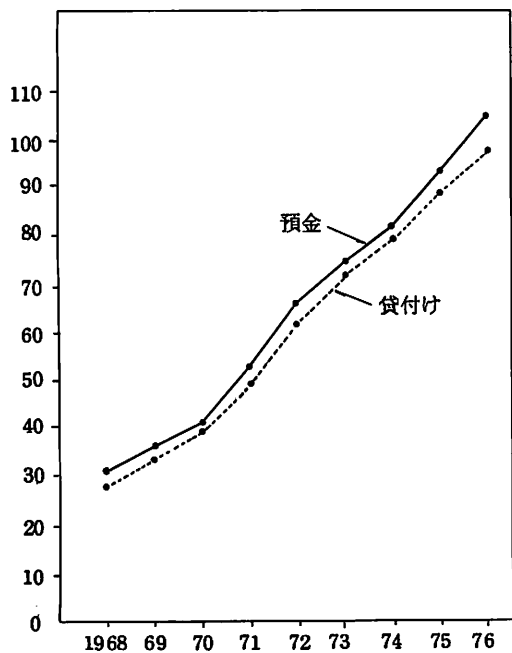


熊本市歯科医師会事業費



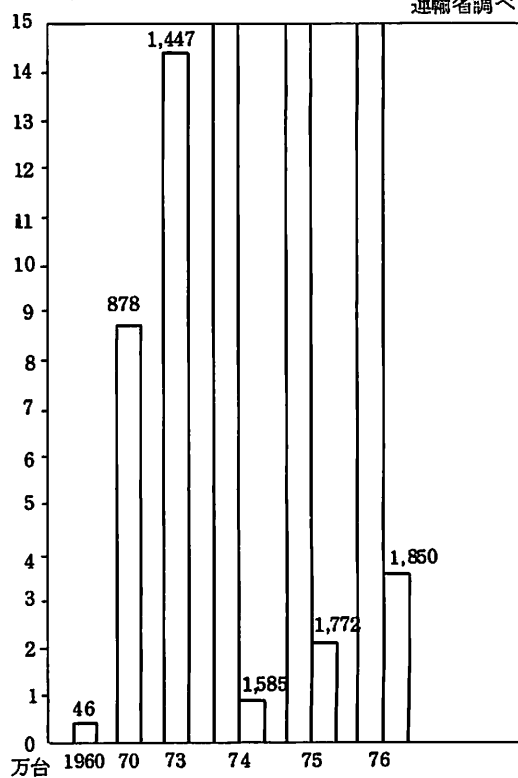
全国銀行の預金と貸し付けの額

単位 兆円 各年とも 12月末
日銀調



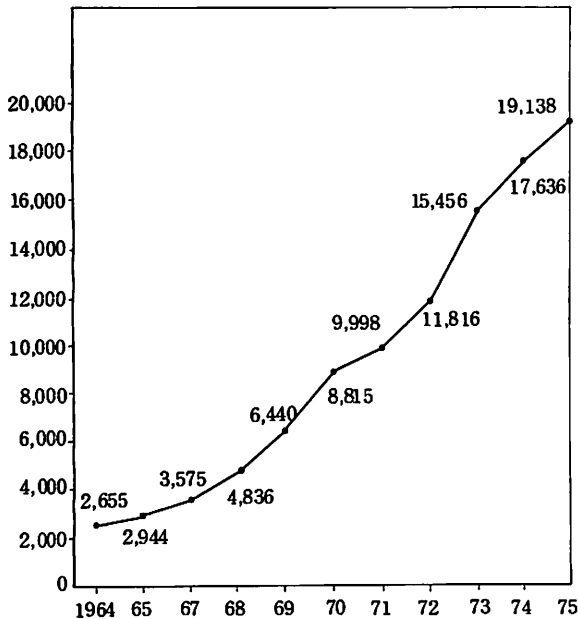
自動車の数

運輸省調べ



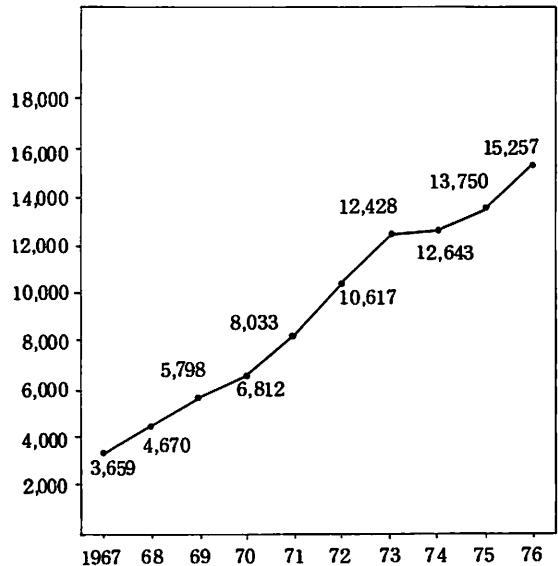
国内線の航空旅客数

100万人キロ 運輸省調



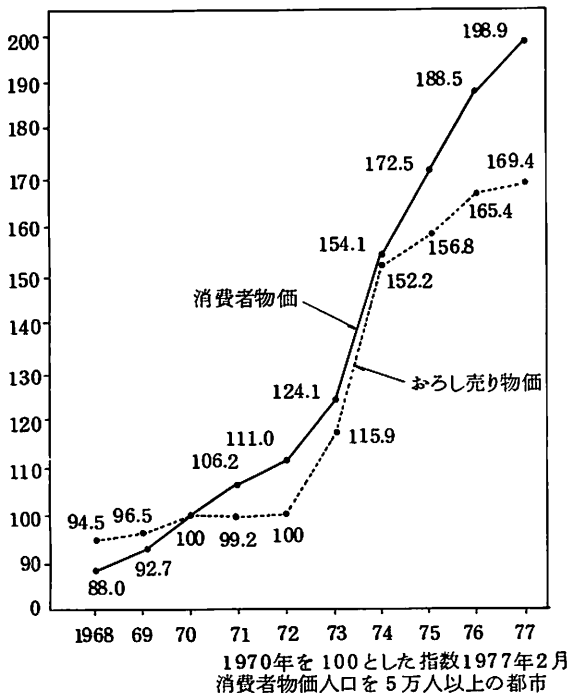
日本航空国際線の旅客数

100万人キロ
日本航空調べ



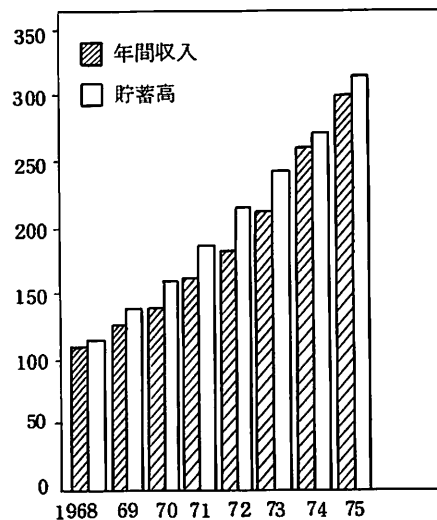
消費者物価とおろし売り物価

日本銀行
総理府統計局 } 調



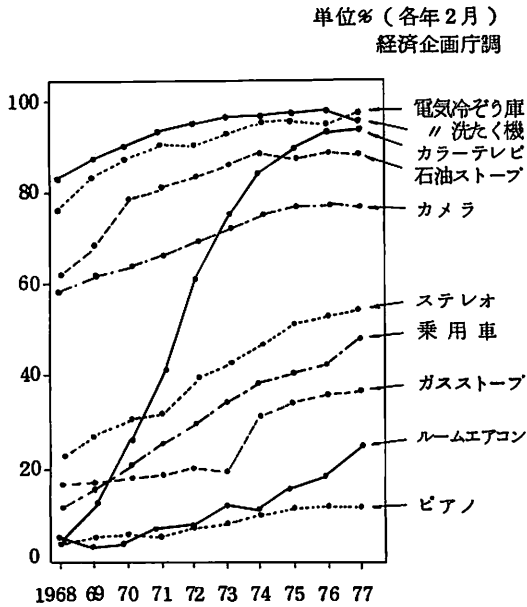
世帯あたり貯蓄高と年間収入（全国）

単位 万円
総理府統計局調

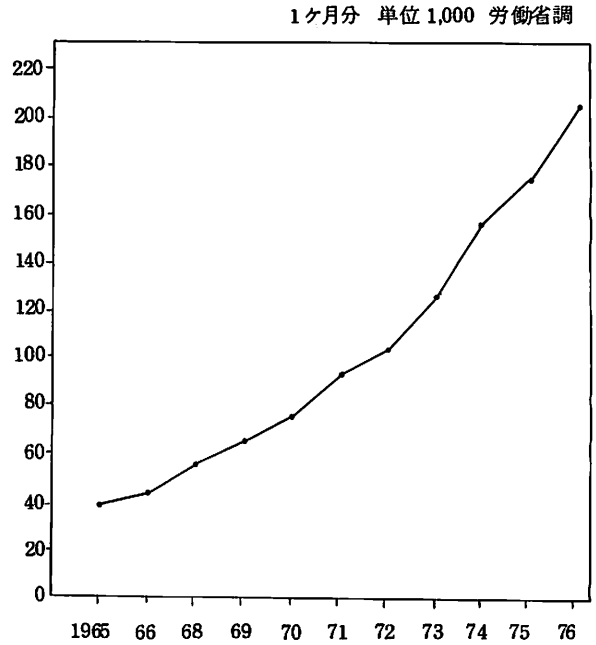


注 貯蓄の中には、預貯金、生命保険、
有価証券、金融機関外預金（社内預金
など）が含まれる。

耐久消費材の普及率（全世帯）



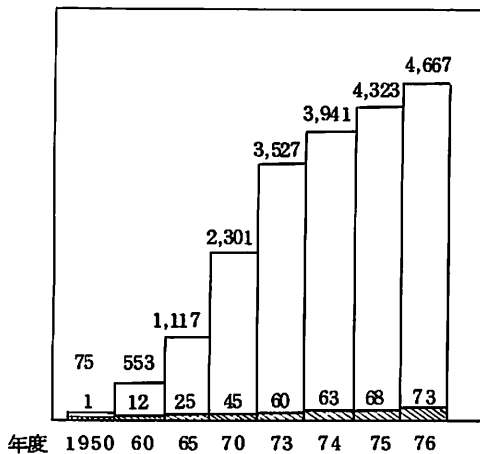
賃金（全産業平均）



規模30人以上の年間平均
1969年までは、サービス業が含まれてない。

電話機の数と自動化率

注 1976年度は予定
単位 万台
■は公衆電話の数



参考統計として下記の

1. 全国銀行の預金と貸し付けの額
2. 自動車の数
3. 国内線の航空旅客数
4. 日本航空国際線の旅客数
5. 消費者物価とおろし売り物価
6. 世帯あたり貯蓄高と手間収入
7. 耐久消費材の普及率
8. 賃金
9. 電話機の数

と掲げておきました。

医 療 の 現 状

広報委員会編

情 勢 に つ い て

1. 開業医の所得格差の拡がり

下のグラフは、診療所開業医の間での所得の格差が拡大している実態を医科乙表個人診療所社保収入（1ヶ月）についてみたものである。

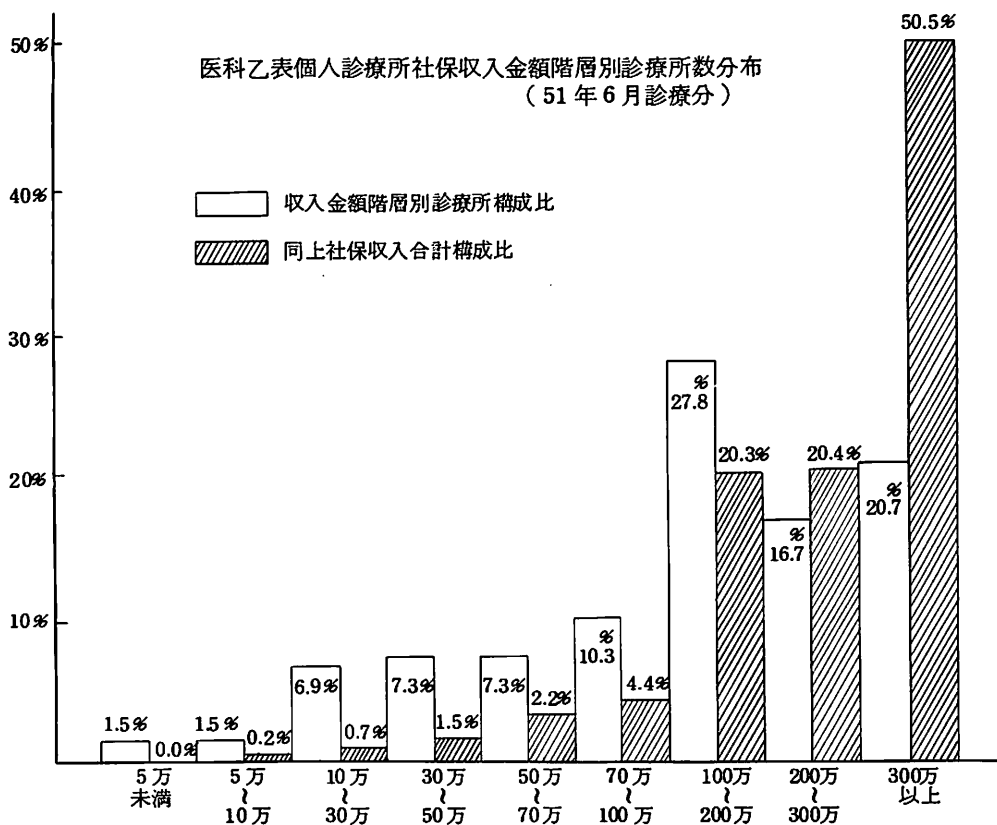
白棒グラフの数字は、収入金額別の診療所の構成比を示し、斜線棒グラフの数字は、その収入金額別ランクに該当する診療所の社保収入合計の構成比を示す。

グラフを要約すると右の表のようになり、1ヶ月の収入（これから諸経費が支払われた残りが所得となる）百万円未満の診療所が34.8%もある

一方、3百万円以上が20.7%となっている。この3百万円以上の層で全社保収入1額の50%強を占め逆に100万円未満の層の占める金額は9%弱にすぎない。

なお、社保収入のほか、国保の収入があるが、これは社保収入の約4割相当とみられている。

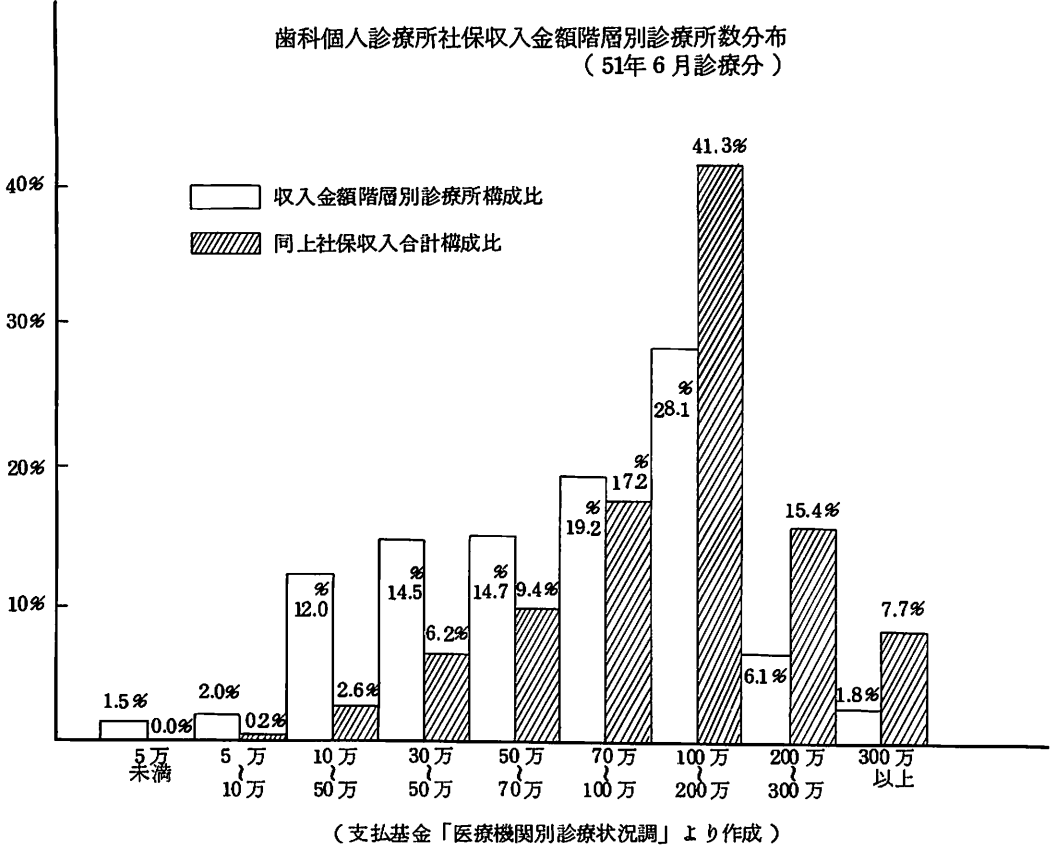
収入金額区分	構 成 比	
	診療所数	金 額
100 万円未満	34.8 %	8.9 %
100 万円以上 300 万円未満	44.5 %	40.7 %
300 万円以上	20.7 %	50.5 %



(支払基金「医療機関別診療状況調」より作成)

歯科開業保険医の保険収入は、支払基金の調査によると（社保のみ）月額200万円以下の診療所が92.1%となっていて、一般個人診療所に比べて格差が少くない。金額階層別の状況をみると、

100万円～200万円のところに28.1%の医療機関が集中している他は、30万円～100万円のクラスにほぼ均等に分布している。



2 一歯科診療所当り1カ月平均保険収入

（昭和50年）

歯科開業保険医の保険診療収入（社保・国保）は、次頁の表にみるように都道府県によって大きな格差がみられるが、その特徴は、東京が全国最下位で、最高の宮崎県とくらべて57%にすぎないことに示されているように、農村県で高く、大都市都府県で低いことがわかる。大都市部では相当の自由診療収入がなければ経営を維持すること

がむづかしいことが推察される。
しかし、不況の進行のもとで、自由診療の要求が低下していることが報告されており、事態の深刻さを暗示している。

宮	崎	①	1,841,941円
北	海	②	1,807,031
滋	賀	③	1,775,189
徳	島	④	1,747,752
富	山	⑤	1,726,551

愛媛	⑥	1,707,352 円
石川	⑦	1,694,478
鹿児島	⑧	1,674,598
秋田	⑨	1,668,274
福岡	⑩	1,667,672
熊本	⑪	1,665,886
青森	⑫	1,647,266
新潟	⑬	1,614,660
広島	⑭	1,596,185
福島	⑮	1,588,512
岡山	⑯	1,566,117
群馬	⑰	1,551,829
長崎	⑱	1,538,235
鳥取	⑲	1,520,932
岩手	⑳	1,520,368
山形	㉑	1,498,639
島根	㉒	1,498,036
香川	㉓	1,494,167
大分	㉔	1,490,623
和歌山	㉕	1,490,337
高知	㉖	1,484,841
長野	㉗	1,481,436

福岡	㉘	1,450,018 円
宮城	㉙	1,422,108
岐阜	㉚	1,414,510
愛知	㉛	1,403,118
全国平均		1,348,791
埼玉	㉜	1,345,909
佐賀	㉝	1,337,316
神奈川	㉞	1,335,828
山口	㉟	1,331,085
茨城	㊱	1,315,246
栃木	㊲	1,291,896
沖縄	㊳	1,287,374
奈良	㊴	1,284,608
山梨	㊵	1,284,565
兵庫	㊶	1,238,857
京都	㊷	1,176,688
千葉	㊸	1,174,937
静岡	㊹	1,173,620
大阪	㊺	1,158,680
三重	㊻	1,140,038
東京	㊼	1,051,937



支部だより

西部支部会 旅行記

支部会最初の旅行を、片山支部長を中心に昨年の春頃より計画を練り、多様な意見が支部会毎々に盛り上がりいよいよ7月16日、17日と（我、郷土）天草西海岸と決定した。

片山支部長の骨折りにより、大阿蘇観光バス、ガイドもベッピンを貸切り、計画16日、PM2時熊本交通センターボーリング場下集合と決定。西部会は集合場所が近く、出席者全員予定時刻に「セーフ」「本日天気晴朗なれど台風近し」TELが先生方から相次ぐ。

行程、16日土曜日天草五橋を渡り、本渡市を通過、天草中央の山間地を通りぬけ西海岸に沿って下田「望洋閣」一泊、午後7時宴会、翌朝5時船釣り、9時観光ホテル出発、天草海中公園遊覧、昼食後熊本交通センターへと帰熊予定。16日早朝気になる天気予報、台風12号西日本へ接近、片山支部長へTEL、釣は断念か、いや少々波が高くても行くぞ、支部長「ハリキッテ行くぞ」。PM1時魚入れクーラーに冷したビール、ジュース支部長自ら持参。台風の前暑さは、大阿蘇観光バスの冷房車で外気と違って快適。明日の釣りで頭いっぱい。PM2時過ぎバスは出発、ガイド嬢との挨拶、市内を過ぎる頃よりホスト役（ガイド）若松さんの日本民謡が歌われて、なごやかな雰囲気車が車内をつつみ、H先生、M先生の歌声も大きく、ガイド嬢も明るい笑いが飛

本日休診



上村次郎

び出した。三角の一号橋を渡る頃少々雨が降り出し景色も一変、もう2時間の乗車との事。少々歌に飽き、睡眠中の先生方も多く途中5号橋レストランにて休憩、諸先生方ビールでトイレへ急行。10分間の休憩後又一路下田へ。M先生、ビールのつまみに



「スルメ」をどうぞ、歯が入れ歯で、「スルメ」はダメ、先生そんなら「おしゃぶり」は、えへへ？本渡へ着く頃ガイド嬢からのプレゼントが飛び出した。「到着地の時刻当て」PM何時何分に着くか？1番近い先生には乙女（ガイド嬢）の熱いキス。H先生、K先生、睡眠中の先生方もガゼン元気が出た。バスは、西海岸へ到着。台風の影響か波が高く、シブキが防波堤を飛んでいる。「明日がこわい」。

夕暗がおとずれる頃、下田も近し、夕食後への楽

しみ期待は胸にそっと、又、到着のプレゼントも諸先生「ギャギャ」。ホテルの前に車は停車、木村豊先生ビッタリ、車内は拍手、「常時、行つけかな」へへへ……？「先生では、熱い口付け」をどうぞ？先生ニタリ……あはは……。ガイド嬢「では先生へ心のこもった郷土みやげをどうぞ、一見落着。ホテルに入り少々疲れたのか風呂へ集合、ここでも明日への期待が話題となった。さて、海の荒とは他に楽



しい宴会は海の幸を満腹に、歌有り舞い有り仲居さんとの色話、(アマクシャは、よかとこばい、昔な「唐コキ」サンておってな女売られて今のシンガポールやタイ、東南アジアに流されたてたい、「ソウネ」「カワイソカネ」、中年のおばちゃん「今夜呑みこんね」「高かつだろう」「下田銀座も美人ぞろいよ？」諸先生方酔も少々、宴会も引くに近づき、若いH先生「ネオンは光っとかい」D先生、「先生、赤かつですか？青かつですか？」「今日は、赤かつも青かつもおなしこつへへへ、」N先生「わしがチヨット様子ば見て来る、今日はいっちょん良かつがおらん、」Y先生、「そう年増が多かつたろ？」K先生「門ば全部開けてくつたい」、天草下田の銀座に若武者5人、ゲタの音高く町をぶらぶら、海風も肌にこちち良い、3~4軒覗き、当店(御客が一人)入ろう。H先生(社長)を先頭にどやどや、社長殿(モテモテ)K先生(テレビ俳優)ソックリ、ホステス言わく、「M先生腹部が飛び出し、金融業者。」

(ホステス好み)全員旅の恥はカキステ夜更けまで雑談に花が咲いた。



翌朝、早起き(残念)台風の余波で高波、釣は中止、東シナ海は、海鳴り、何人かの先生は散歩、L先生M先生は朝風呂、朝食(トラスタスキのカワザンヨー)……、大魚の話が話題をつつんだ。ホテル9時過ぎ出発、海中公園見学中止、予定変更、本渡観光とシャレこみ、バスは小雨降る西海岸を一路本渡へと、昨日の酒がバスの揺れと程良く若松さんの子守歌でいい気分、正午近く殉教公園到着、千人



塚、キリンタン館見学後、記念写真撮影、暑い風が一段と強くなる。昼食は天草観光ホテルにて。アシカショー、水族館の餌付を見学、家族へのみやげを手にてPM1時一路帰途へついた。

西部部会は今後も毎年旅行を計画しています。又家族一同そろっての旅行も思案中。

クラブ・チャンピオンになって

斉 藤 健



私はこの度、十月十一日に東急ゴルフ場の初代クラブチャンピオンに成り、こんなに嬉しい事はありませんでした。男冥利に尽きるとはこのことでしょうか。この味わいに浸る事が出来たのも松本謙一先生を初め多くの諸先生方の御指導、並びに御鞭撻の賜物と存じます。ゴルフを始めて九年目にこの幸運を掴む事が出来た事は私一生忘れる事が出来ません。この度は、勿論チャンピオンになろうなんて思っただけではなく、良ければ二位か、三位にでもなればと思い出たわけです。所が第1日目の予選で、三十六ホールの特タルが、私が一六〇（八一・七九）二位が一六二、三位が一六三とトップになり、それからやる気になりました。しかし私が優勝出来とは思っていませんでしたが、兎に角頑張りたいと思い俄かに練習を始め、次の決勝ラウンドに望みました。前日、中根、坂梨両先生を私の肩ならしにワンラウンド付合っ戴き、夜は早めに寝ましたが、明日のことを考えると、どうしても眠れず、四時間程度寝たでしょうか、食事もうれいを通りませんでした。前日の予選の上位四人でスタート、第一ラウンドで二位と七打差でトップを維持したものの、第二ラウンドでその七打差を越されて、逆に

一打離される結果となり、又私が追いついて並び最終ホールにと進みましたが、日が沈み薄暗くてバターのラインも読めない有様、それに目の前に優勝がぶらさがっていたせいか、三十センチ程のバットを決められず、相手の方と翌日プレーオフしなければならぬ羽目になり、その時の悔しさ、苦しさは今でも思うと胃が痛む様な気が致します。

次の日、二人で決着をつけないければならず、日頃の成績からは、どうみても勝てる相手ではなく、囲りの人は、九分九厘の方が私の負けと予想をさったでしょうし、私自身もそう思いました。しかし勝てたと言う事は、決して実力ではなく、私に運があったとしか思えません。又今年が私の厄年れで、そうした運が重さなっている事と思います。しいて言えば気力と体力勝だったでしょうか。



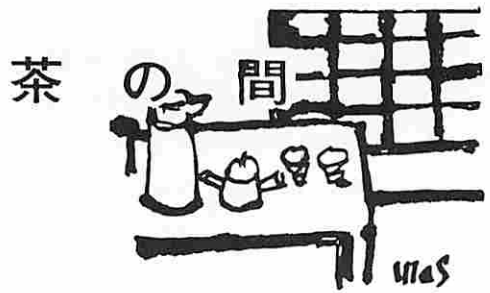
チャンピオンになれた事は、非常に嬉しい事ですが、日が立つにつれその名の重さがのしかかり今迄の様なゴルフをしてはいけな。東急の名を汚す様なゴルフをしてはならないと思い自分に言い聞かせ、ここ数年練習をした事がなかったのが最近時々練習をしています。又練習が出来ない時は足腰の強化握力の強化等やっています。

クラブ選手権及び全九州クラブチャンピオン大会に出場して以来、私が感じた事はプレーをしている時、自分のミスショットを悔んだり嘆いたり腹を立てたりする前に練習をする事だと思いました。そして練習時も一打一打を大切に考えながら打つことではないでしょうか。又無気力的投遣りのプレーよ

りもミスをしてミスをして一生懸命やっている姿は非常に見ていて気持ちの良いものです。それが上達の秘訣ではないでしょうか。

何はともあれ今日の私があるのは松本先生のお陰だと存じ改めてこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。





新春会員懇親パーティ開催

会員福祉委員会
広報委員会

市歯科医師会恒例の懇親パーティーが去る2月4日(土)午後6時～8時30分 於ホテルキャッスルで行われた。会員76名、御夫人37名の出席を得て、パーティーは緒方益夫会長の挨拶に始まり県歯科医師会会長西山勲先生の祝辞を頂き、坂本一夫先生の乾杯の音頭で開宴、フィリピン歌手のすばらしい歌。

会員福祉委員が御夫人への御土産に企画した福引で宴も盛り上り、幸運の一等賞には寺脇先生の奥様が当られ、宴もたけなわ、この頃になると、会員、奥様達の実声も聞きたいもの、宇治先生の奥様、瀬

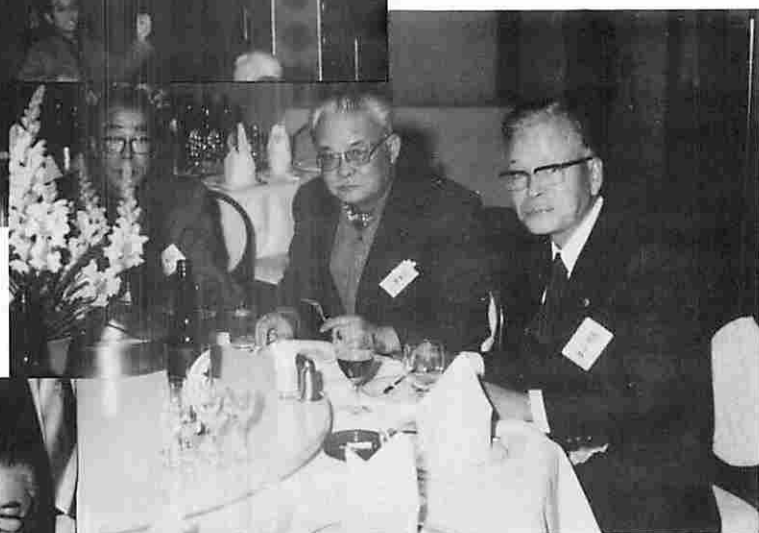
上事務長の御令嬢、又斉藤・山室・林・本田各先生の日頃カラオケで鍛えられたすばらしい歌の数々に会場もうっとり、しかし会員の中にファンが多い菊池先生の奥様が都合で欠席されちょっと淋しい気がした。

今回は市歯科材料商組合より洋酒の寄贈があった事をお知らせ致します。広報・会員福祉委員会合同企画でこのパーティーのもよみの会員の先生のスナップ写真を思い出にお届けします。

会員福祉委員 富岡 記



3年度熊本市歯科医師会懇親パーティ











私の青春時代

林 正 之



新聞、テレビで卒業式
の話題が賑やかにクロ
ズ・アップされる此頃だ
が、小生の長男も卒業の
年を迎え、小生が昭和
36年3月、母校（日本
歯科大学）を卒業した時
のことが、つい昨日の様
に思い出される。

卒業生一同、記念写真を撮る時は、3月には珍らしく大雪で視界をさえぎったのを記憶している。前、日歯会長中原実学長が、次の様な告辞をされたのを覚えている。「今日の学園に知識学術のマーケットの如く考えているとしか思えない者がいるのは、教育を単に受取手段と想定し、人間相互の接触意義を全く理解する能力の欠如と見る他はない。だが、学問と人、即ち教師とは切り離し難いものであろうが、教師を学問の人としてのみ理解することは、青年としては止むを得ぬことであるが、君等自身は教師の人としての存在に無意識のうちに接している。この事を想起すれば、我我も重大な責任ある地位にあるかを深く反省するものであり、本学独自のスタイルを身につけようとしている。このスタイルの実証は諸君の双肩にかかっている。終りに、日頃、君等にはやかましく注意した。白衣を身につけているということが、清潔そのものではなく、清潔の風をする説明に過ぎぬなどと云うことのない様に。」この告辞がどんな意味をもつか、時々考えてみることもあるが、この事については、後に述べることにしたい。

卒業後すぐ（36年4月）東京女子医科大学口腔外科学教室に入局することになった。当時の辞令を見ると「貴殿を、口腔外科学教室、助手に命ずる。」の下に（無給）と書いてあり、今思うと非常に懐か

しい。以来、昭和39年11月までは、無給医局院の味を充分味わった。

入局一年間は、自身の受け持ち患者の検査・技工・その他すべてを自分でやらなければいけないシステムで、夜は9時より早く帰ることは、数える程しかなかった。一般外来では助手（衛生士）は付いてくれず、一人で全てをやらなくてはならない。助手を何人も付けて診療されている先輩の先生方を、うらやましく思っていた。その先輩の先生には、現在愛知学院大学の河井幹教授、東京女子医大の河西教授、東北歯科大学の高以教授の姿が印象的であった。外来が終ると一緒に入局した三人の同僚と、お互いの血液を取ったり、耳たぶを切ったり、血液検査の練習、静注の練習、病理標本の作り方、心電図の測り方等、医局長から申し付けられる種々の検査項目について、先輩に教えられながら時を過した。一年過ぎて検査を中央検査室へ、技工を技工室へ始めて出した時のうれしさは、忘れることのできない思い出である。

又、入局後、二ヶ月過ぎた頃、初めて中央手術室へ入り、確か下顎骨の複雑骨折だったと思うが、頰部にメスが入り、血液がにじみ出て来た時、緊張の勢が軽い貧血を起し、教授に脛を下駄で蹴られ、米つきバツタの様に跳び上がったことも、今となれば懐かしい思い出である。その後も一年位は脛には傷が断えなかった。鉤の持ち方、ふき方、ほんの一寸したことが藏られる材料になるし、三例・四例と手術が続く時は、必死の覚悟がいり、術者を恨めしく思ったこともあったが、妥協の許されない場所と時間内の出来事であり、今ふり返って見ると現在の診療の態度もその辺から培われて来た様である。

入局後2年経ち、副論文も三編出来上った。医局生活もすっかり馴れて、後輩も5人程出来、その頃からやっとアルバイトに出してもらえるようになり、

週3回夜だけ東京都内の病院へ出かけた。エクトミー、剝離手術、歯根端切除手術その他の小手術を一晚に10～15例位やっていた。当時、日給で約一万円もらっていたが、下宿に帰り着いた時は懐は空になっていた。その頃であったと思うが、現在社保委員の菊池先生と中野の繁華街でしばしば逢ったが、現在の奥様が中野出身であった由。その頃はトリスのストレートがシングルで25～30円、ハイボールが50円位であったと記憶している。

昭和38年頃より、福島郡山に寿泉堂という総合病院があったが、そこの歯科に年3・4回ずつ出張する様になった。女子医大では一日に済々20名位診療していたが、郡山では約百名の患者を診なくてはならず重労働であった。手当が良かったので殆んど毎晩巷をさまよい歩いて、病院の歯科の椅子で寝ていたこともしばしばであった。

しかし、郡山は東北の起点になり、新たに会津若松、会津磐梯山、五色沼、岩代熱海、磐梯スカイライン、スキー場、野口英世の生家のある猪苗代湖、松島青葉城のある仙台、三春駒で有名な三春、相馬焼きの相馬、昔、関所のあった白川の関等へ、史跡、歴史探訪の小旅行、スキーと郡山出張中、十分に満喫した。現在の東北歯科大学がある所は、当時は見渡すかぎりの水田で、初代学長の村瀬教授はこの頃から郡山に歯科大学設立の構想を持っておられた様である。

当時、女子医大の口腔外科は、スウェーデンのマルメ国立歯科大学ヒルデンビヨン教授の下に、ドイツ、ボン大学のシューハルト教授の下、インドネシアの避暑地バンドンのバジャジャラン大学に口腔外科教室を設立、復帰前の沖縄に一ヶ所、東京都内に二ヶ所、出張研修の場を持っていた。

医局では日本口腔外科学会の事務局を引き受けており、人事移動と年4回発行の日本口腔外科学会雑誌の校正、発送と、戦争の様な毎日を送っていた。昭和40年夏には「顎骨々折の治癒過程の実験的探索」という学位論文のテーマを教授よりもらい、そ

の構想、実験、実験動物の管理、外来入院その他の雑用と寝食を忘れて過した。丁度この頃は新婚ホヤホヤで、無給助手から有給助手になったが、実に4年近い無給生活であったことを雑記しておく。

約1年かゝって実験を終り、標本の製作に取りかかる段階になってくると、どうしても基礎医学の知識が必要になり、午前中は患者の診療に追われ、午後からは母校日本歯科大学の病理学教室に出かけ、毎日標本作製に精を出した。約3センチ角の研磨標本を作ることは、部分的に薄くなったり厚くなったりするので、非常に難しかった。関係のない標本で平均に厚みが出来る様になるまでに約1ヶ月を要した。手指の指紋は無くなり、人差し指、中指からは血が出ることもしばしばであった。此の頃長男の誕生。

約1年、やっと標本が出来ると、一つ一つを鏡検し読んでいかなければならず、蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡を使用する時は、時間がかかるので、他の医局の先生が帰ってから、夜中に鏡検撮影をした。

42年、長女誕生。

外来、入院患者の診療、出張、口腔外科学会誌に関する雑用。そして医局長を命ぜられ、自分のアルバイトも思うにまかせず、秋の口腔外科学会総会（札幌）で発表し、やっと翌43年の2月教授会に提出する事が出来た。（主論文他副論文12編）、主査は村瀬教授、副査は皮フ科の中村教授、生化学の松村教授であった。（甘い声で有名な声楽家、五十嵐喜芳の奥様は中村教授の娘様である。）

次の教授会までに、それぞれの教授室で口頭諮問、筆記試験を受け、評価Aをもらったものの、刑の決定を待つ囚人の様な気持ちで待った。医局で待つことしばし、教授より「通ったよ。おめでとう。」の電話があった時は、言葉に表わしようのない感激うれしさに胸が一杯だった。「ありがとうございます。」の一言しか云えなかった。助教授他全員判定を待っていてくれ、皆様から喜びの言葉をいただき、一人一人から握手を求められ乾杯した。一杯のビールのうまさ、今までに飲んだ何物よりうまく、

又7年間の苦労も一気に飲み込んだ様な生涯最良の瞬間であった。それは、昭和43年4月19日の事であった。

そして、その年の6月父の病気の為一時帰郷、約一ヶ月生家に居たが、父の回復の見通しが立たないため、44年春に予定されていたインドネシア・バンドンのバジャジャラン大学への出張もあきらめ、退局の止むなきに至り、43年7月に帰郷し、8月1日より熊本市で開業、毎日の診療に従事した。

その後、45年だったと思うが、新屋敷の堤先生の代りに熊本県学校歯科医会の理事になり、桒原先生の下で何にも判らないまゝ過して来た。

46年には、熊本市歯科医師会の口腔衛生委員に推薦され、無我無中で会務に精を出した。当年の8月には、私の最も尊敬していた父が他界し、途方に暮れ、酒に浸っていた時もあったが、仕事をする事で気をまぎらわせていた。11月には保護観察の方に足をつつ込んでいた関係上、思いがけなく、当時の法務大臣前尾繁三郎氏より感謝状を拝受した。

翌47年4月には二男誕生。

48年には口腔衛生委員を二期目、併せて市歯科医師会の広報委員にも推薦され、緒方益夫会長より「忙しいけどよろしく頼むよ」と激励されたのもつい先日の様な気がする。

昭和50年には、県の理事に推薦され、熊本県歯科医師会と統合した学校歯科医会の担当を命ぜられた時は、一時は途方に暮れ、どうしようかと迷っている中に二年の任期は過ぎ、52年の二期目もあつと云う間に半分過ぎてしまった。

昨年は満40才を迎え厄に入ったが、人生の一つの区切りとして1年の間色々と考えさせられた。思

えば45年、学校歯科医会に足を踏み入れて以来約8年になるが、反省する材料も数えればきりがない位多くあり、その間に得た友人、先輩、後輩に多々教えられ、お金では買えない友情も沢山得ることが出来た。これら全てをこれからの人生に大いに加味して悔いのない人生を又、歯科医師としての誇りを持って生きていく糧としたい。

冒頭、中原学長の告辞の中に「白衣を身につけていると云うことが清潔そのものでなく、清潔な風をする説明にすぎぬなどと云う事の無い様に」という文章を書いたが、我々医療人としてまさしくその通りであるが、もう少し違う云い方をすれば、我々は医療の世界の専門家として、自分の専門のみ出来れば充分などという考えを持たないで、歯科医師という資格を取り去っても立派な人間として、いかなる時も、いかなる人をも納得させられる人物にならなくてはいけない」と解釈してもよいと思う。又、そのためには私は大いに勉強して、又大いに遊んで、前述の様な人物になりたいと望んでいる次第である。

追記

取りとめもなく、思い出すまゝ書き綴ってきたが、人生の一番大切な青春時代を忙しさにまぎれて過ぎて来た様な感じを受けるが、私自身に取っては、それが私の青春時代であって、私自身は決して悔いの事の無い生き方をしてきたつもりで、これで良かったんだ、これが私の青春だったんだと誇りにさえ思っている次第です。

昭和53年3月23日記

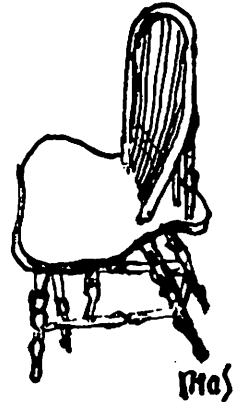
短歌

北 島 照 明

夕食に牛肉かめばたちまちに激痛はしりこらへがたしも
朝ごろに念を入れつつ歯みがきせしことなどむだにてありぬ
左側の奥歯の痛みときをりおこれどすぐにもやむに気にもかけざり
親不知の痛み氣にして飯すらもおそるおそるにかみゐるこのごろ
歯みがきの終はりて後もぬるま湯で口をそそぎて痛みさぐる
去年の春痛みにたゑかねやうやくに歯医者に行くを決意せりけり
数日経て痛みもとれて白きもの虫歯の穴につめられにけり
治療悪し家に帰りて水飲めばあいもかはらず痛みいで来も
このままに行かずもよしとうち過し忘れしころの激痛にてあり
わが虫歯いかなる様かと鏡をば二枚つかひて写してぞ見る
痛みをる歯ぐきのつけねは赤み帯び指にて押せば走るものあり
タバコすうわが歯ことごとやにのつきこすれど落ちずこびりつきたり
こらへつつ短歌の授業にプリントを書きつつあれば目もと痛むも
学習の係といひて生徒らが吾を呼びくるにプリント渡す
明石海人の巌のやまひを詠み給ふ歌読みゆけば痛み忘るも
病ひすら意志の力で歌人はことばつづれるその力強さほも
真剣に生徒らことごと聞きたるに声張りあげて歌解釈す。
授業終へようやく廊下にいつるとき更に痛みの増したるごとし
階段を急ぎてくだりぬるま湯でうがひすれども痛みはきえず
買ひ求むる今治水てふ薬をば歯ぐきにぬれば更に痛むも
授業終へ宿直室にかけこみていねむとすれどねつかれざりし。
合格のしらせを告ぐる生徒らで職員室はにぎはひにけり
歯の痛み誰にも言はで生徒らのよろこぶ顔をつとめてさくる
わが神経いらだち騒ぐ生徒らを思はずしかり情けなくなる
薬てふ薬ことごとつかへどもやはらぐことなしわが歯の痛み
このままに死するかと思う歯の痛みたへがたかりしこの歯の痛み
息すふも痛みの走る口びるをかみしめハンドル必死ににぎる
やうやくに歯医者に行けばすくなかる患者待ちゐるに安堵しにけり
神経を殺しませうとぶっきらぼうに医者語るに任せてみたり
学生の待ちゐる塾にも行きも得ではがゆかりけりこの歯の痛み
電話にて許したまへとけふのこと友に話れば痛みやはらぐ
電話よりうち笑む友の声のせば痛みもごとくにやはらぎにけり

永田博久先生の所に診療にこられていた北島照明さんより、上記の歯の痛みに関する短歌をよせられました。患者さんの心情を歌より推察し、患者さんの気持を今一度考えてみましょう。

Dining Room



基金通報より 審査委員会だより

審査委員会から、診療報酬請求上の注意事項について、毎月該当の医療機関へ連絡をしておりますが、主なものをつぎのとおり、まとめましたので、今後の参考までにお知らせします。

1 傷病名について

- (1) 健康診断、矯正診断は保険では認められない。
- (2) 有床義歯、欠損病名で調整料、軟処置料を請求する場合は欠損→ Du1 のように記載されたい。
- (3) ◎印は健全歯を抜髄、生切した場合の印であって、当該歯に疾病があるときは○印が正しい。
- (4) WZ病名は当該歯に必ず記入されたい。
- (5) 抜歯と同時の搔爬、止血、縫合等の処置料は抜歯料に含まれているので、搔爬、止血料を再請求する場合は該当病名を併記されたい。
- (6) 難抜歯、WZ摘出手術と同時の骨整形は算定されない。ただし後日再整形することは差し支えないが、該当病名を併記されたい。
- (7) 病名欄に多数歯の記載があり、GP料を請求する場合は、病名又は部位歯を記入願いたい。
- (8) GP算定に際し、鉤歯あるいは歯肉息肉、増G、肥G等のみの偏向的病名が多数みられるのは一考を要する。
- (9) 同一病名は同一歯式にまとめて記載されたい。

2 投薬について

- (1) 内用・外用剤の算定・記入誤りがみられる。
注ア、内服薬は1剤1日分で算定し、その点数に日数を掛けて算出する。
イ、外用薬（含嗽剤等）は例えば3日分を投与する場合は3日分の総量を1回分とし、その点数に回数を掛けて算定する。
ウ、11点以上は薬名・規格・単位（錠・カプセル・%・mg等）を摘要欄に記入する。
- (2) トローチ剤は外用薬の扱いとなっている。
- (3) アズレン顆粒1%1g62.60円のは内服薬であり、含嗽剤には適用されない。
- (4) ラリキシン錠（250mg）は薬価基準から削除され、現在はカプセル（250mg）のみであるため、記載にあたっては、留意されたい。
- (5) 抗生剤等の投与については、使用基準に従って慣例的にならないように願いたい。

3 特定薬剤について

- (1) サホライドは特定薬剤のため、特定薬剤欄に5点×○で請求されたい。
 - (2) サージカルバック（PM）は1/3類11点で4点を差し引いた7点の請求が正しい。
- 注 日歯点数表の特定薬剤は所定点数であり、合算点数の場合は4点を差し引いて算定することになる。

なり、従って単独点数では所定点数4点以下のときは請求点数はない。

4 レントゲンについて

- (1) 1～2歯程度の単純な単独病名についてのパノラマ請求は不必要と思われる。特に必要がある場合は理由を簡記されたい。

5 処置・手術について

- (1) 普通処置を算定した即処は認められない。
- (2) Hys病名での処置料を普通処置欄で請求するのは誤りで、智覚過敏欄に記載されたい。
- (3) 抜髄と同時の普通処置料は算定できない。
- (4) 根充と同時の根治料は算定できない。
- (5) ZS病名での除石は12点が正しい。
- (6) 指導料が算定できるものは、P病名のみ認められる。
- (7) Pの指導料は初回は初診料に含まれ、2週間経過後に指導をおこなった場合に算定される。
- (8) 口腔軟処置の算定は1口腔単位が正しい。
- (9) 除石あるいはPcur と同時の当該部のP処置料は算定できない。

6 その他の欄について

- (1) 明細書に印刷してない処置・手術はすべてこの欄で請求されたい。
- (2) 残根削合・咬合調整・鈎歯調整は明確に記入されたい。
- (3) 磷酸セメント充填は終末処置の関係から、この欄で磷セ充16×1のように記入されたい。

7 麻酔について

- (1) 麻酔薬のみの請求は認められない。
- (2) 10点以下の薬名は省略して差し支えないがct(1.8ml)のみでは2点、OA+ctでは4点が正しい。
- (3) 浸麻は100点以上の処置及び手術には算定できない。

8 歯冠修復及び欠損補綴について

- (1) 補診料の算定は診療期間を通じ1口腔1回の算定とする。
- (2) 床修理のみの病名では補診料は算定できない。
- (3) 欠損人工歯追補の場合は補診料が算定される。
- (4) 床修理の印象料はリベースを除き40点が正しい。
- (5) レジンジャケット冠の架工義歯は認められない。
- (6) PZ150点算定の場合は、全部冠形態の請求点数となり、鑄造歯冠修復インレー欄の点数はPZ40点の請求とされたい。
- (7) CK調整料の算定は1歯1回で、ダミーも同様の算定となる。
- (8) 監視料の算定は1口腔1回の算定である。
- (9) 仮装着の時点での架工歯の請求は認められないので必ずset料とも請求されたい。
- 00 リベースと同時の新調は相当の理由がない限り認められない。
- 01 歯冠形成と同時の普通処置は認められない。
- 02 ダミー3歯以上の架工義歯は51.8.1から差額徴収の廃止により認められない。
- 03 人工歯の請求誤りがみられる。

9 その他の欄について

- (1) 未装着請求はつぎの点を留意されたい。
注ア、請求月は製作月とする。

イ、実日数は0日となり、歯冠形成印象等同時に請求するのは、誤りである。

ウ、転記は中止とされたい。

エ、装着料の差し引きに注意願いたい。

- (2) イオン導入の算定できるものは根管治療のみである。
- (3) キシロカイン等、麻酔剤の皮内テストは認められない。

改正点数表の留意事項(歯科)

- 14Kの合金の使用は歯冠継続歯、前歯のダミー2歯までの架工義歯、2歯欠損までの有床義歯の鑄造鈎のみに認められ、従前認められていた前歯の複雑窩洞等の鑄造歯冠修復については代用合金を使用する。

- 単純窩洞の鑄造歯冠修復の条件が削除されたので必要に応じ行なってさしつかえない。
- 差額徴収は前歯の鑄造歯冠修復物のインレイ、4分の3冠に限られ、貴金属を使用した場合のみ認められる。

注 医療機関は金バラで保険請求し患者からは貴金属の材料差額のみを徴収する。

- 再診(第2診以後)においても心身障害者診療手当(50点)を算定した者が6才未満の乳児である場合は乳児診療手当(24点)も同時に算定できる。
- 4才未満の乳幼児に対し処置及び手術、それともなり麻酔、歯冠修復等を行なった場合は当該所定点数に100分の50に相当する点数を加算する。

注 日歯点数表(3)の点数を参照されたい。

- 根管形成とは、加圧根充を行う根管処置で、アピカルシート又はステップの形成並びに根管壁の滑沢化を行なったものであること。

注 根管形成が完了した時点で算定する。

- 加圧根管充填とは、根充に際しガッターバーチャポイントを主体とし、根管形成を行なったものに行なり根充をいう。
- 根管内異物除去における異物とは根管内で破折した除去が著しく困難なるリーマ等をいう。
- グラスアイオノマーセメントは複合レジン充填と同様に取扱ってよい。

- エナマイト及びデルトンについては原則として幼若永久歯又は乳歯の小窩溝の初期齲蝕症に用い

2面を限度とす。

注 窩洞形成の算定は行なわず、エナメルエッチング法により算定する。

- 前歯の4分の3冠の歯冠形成料は生、失PZともに5分の4冠並びに全部冠の所定点数150点に600点を加算した750点の算定とす。
- ジャケット冠の歯冠形成料はレジン冠の場合は70点、硬質レジン冠の場合は70点に80点を加算した150点の算定となる。
- ジャケット冠を維持するためのメタルコアを装着した場合の歯冠形成料の算定はレジン冠のPZ70点に150点を加算した220点、硬質レジンの場合は硬質レジンPZ150点にさらに150点を加算した300点とする。

注 メタルコア装着のため行なった歯冠形成、印象採得、装着料等の費用及び材料料は算定できない。

- 咬合採得料(1個につき)14点はブリッジの支台装置を除く歯冠修復物の場合製作物単位で算定する。

注 加工義歯等については従前通りである。

- 有床義歯を装置しない口蓋補綴及び顎補綴における咬合採得料は

1. 床の印象採得が簡単なもの 25点
2. 困難なもの 60点
3. 著しく困難なもの 100点

- 副子及び固定装置における咬合採得については当該副子及び固定装置の範囲に相当する歯数により区分「304」の2に準じ算定する。

注 区分「304」の2とは欠損補綴(1装置につき) 1) 小数歯(1歯~8歯) 25点
 ロ) 多数歯(9歯~14歯) 60点
 ハ) 総義歯 100点

- 有床義歯修理リベース及び歯冠継続歯等、修理

について人工歯を使用した場合は人工歯の算定ができる。

- 塗蠟絹糸結紮法及びエナメルボンドシステムによるものも暫間固定の取り扱いとなる。
- 盲のう測定検査は3分の1額単位（1回につき）

で行う。

注 手術と同時に行なったものは算定できない。

- 電氣的根管長測定検査（1歯につき）は1歯1回限りの算定とす。

注 電気抵抗を応用したものに限る。

診療報酬明細書の提出にあたっての 留意点について

- 毎月下表のとおり記入もれ、記入誤り等による返れいが多く見受けられますので、再度点検のうえ提出されるようお願いいたします。

過去3ヵ月平均返れい内訳（9.10.11月分）

保険者番号・記号番号の誤り	20.5%
傷病名部位もれ	29.1%
診療開始日もれ	12.0%
内服の薬名、濃度、分量もれ	17.0%
未装着の誤請求	9.4%
その他	12.0%

- 明細書のとり方について

下記の番号順に一括し、切れないもので確実に
とじて下さい。

1. 請求書
2. 政管健保 — 本人、家族
3. 船員保険 — 本人、家族
4. 日雇健保 — 本人、家族（一般、特別）
5. 共済組合 — 本人、家族
6. 健保組合 — 本人、家族
7. 自衛官等
8. 併用分
9. 公費単独分
10. 台紙一適当な厚紙を使用する。

保険者ごとにまとめる。

下端を幅5ミリに
わたり青色で塗る。

おげんきですか



家族の紹介

誠孝、須弥 父・母

宇治 正子 妻

綾子 長女 昭和47年8月8日

要孝 長男 昭和51年5月26日

氏名 宇治 道孝 昭和16年3月31日生

自宅 熊本市水前寺公園 15番31号

(TEL) 83-0333

診療所 〃 (TEL) 83-0333

趣味

ファミリードライブ

経歴

昭和47年3月 神奈川歯科大学卒業

昭和47年4月～自宅にて勤務

昭和52年7月～自宅開業

現在にいたる。



氏名 矢毛石 陸 男 昭和19年3月10日生

自宅 熊本市楠4丁目15-7 (TEL) 38-7228

診療所 同上 (TEL) 38-7228

趣味

和風式フライ（特に自作毛バリ）

写真、音楽（特に合唱）

ちょっと一言

私が歌、女房がハーブ、2人の子供が雑音で時々家庭音楽会をやっております。

経歴

東京歯科大学卒

久留米大学医学部歯科口腔外科入局

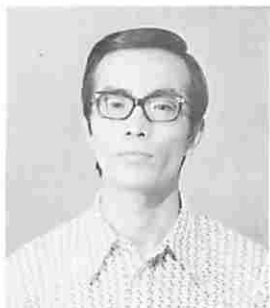
昭和49年10月 開業

家族の紹介

妻 晴美 昭和23年生

長女 礼子 昭和50年6月2日生

長男 康男 昭和52年1月8日生



氏 名 岡 田 知 久 昭和19年3月17日生
 自 宅 熊本市本荘5丁目10の28 (TEL) 66-2973
 診療所 同 上 (TEL) 66-2973
 趣 味

ゴルフ、マージャン

経 歴

昭和45年3月 大阪歯科大学卒業
 昭和45年4月 大阪田中歯科医院勤務
 昭和46年4月 青木歯科医院勤務
 昭和48年5月 現在地にて開業

家族の紹介

妻 扶美江 昭和21年 8月21日生
 長男 和 久 昭和49年 1月22日生
 長女 京 子 昭和51年12月16日生
 母 千 鶴 大正 3年 2月22日生



氏 名 緒 方 進 昭和19年5月18日生
 自 宅 熊本県飽託郡飽田町砂原池 304-1
 (TEL) 09622-7-0268
 診療所 熊本市上通町一番19号宝塚ビル3F
 (TEL) 55-3513

趣 味

囲碁

ちよっと一言

いつのまにか、二児のパパ、体に自身があっても現実
 はきびしい。体力測定テストの結果は年令通り30
 才とででショック。ロマンス欠乏症にならないよう
 心身をきたえておきたいと思います。

経 歴

昭和38年3月 熊本高校卒業
 昭和38年4月 東京歯科大学入学
 昭和44年3月 東京歯科大学卒業

昭和44年4月 健軍、緒方歯科(緒方益夫先生)勤務
 昭和44年9月 上通、緒方歯科(緒方益夫先生)勤務
 昭和47年4月 現在地にて開業

家族の紹介

母 ユノ 大正 6年生 60歳
 妻 昌子 昭和22年生 30歳
 長女 桂子 昭和47年生 5歳
 長男 優一 昭和49年生 3歳



松本歯科（熊本）
鶴見歯科（下関）
現在安政町にて開業

家族の紹介

妻 布記子 昭和24年11月13日生
長男 雅 光 昭和47年 9月 3日生
次男 ? 昭和53年 6月 出産予定

氏 名 千 場 正 昭 昭和19年9月4日生
自 宅 熊本市出水七丁目733の44
(TEL)78-8338

診療所 熊本市安政町4の19 (TEL)52-0686

趣 味

野球、ゴルフ、マージャン

ちょっと一言

今年は、ゴルフ一筋、うまくなりたいですね
……ハイ。

経 歴

済済費
九州歯科大学



家族の紹介

妻 マサ子 昭和24年生
長女 友 紀 昭和47年生
長男 一 茂 昭和50年生

氏 名 前 田 茂 昭和20年9月28日生
自 宅 熊本市九品寺4-2-24

(TEL)62-6008

診療所 同 上 (TEL)71-1966

趣 味

空手道（和道流4段）、馬

ちょっと一言

最近は人間どころか、馬に蹴られっぱなしです。

経 歴

昭和46年3月 日本歯科大学卒業
昭和48年1月 熊本市本荘にて開業
昭和52年5月 現在地にて開業



氏 名 田 島 宗 穂 昭和20年11月18日生

自 宅 熊本市渡鹿5丁目15番74号 (TEL) 64-9692

診療所 熊本市渡鹿5丁目16番10号 (TEL) 64-8200

趣 味

絵画、ゴルフ、マージャン、狩猟、クラリネット

ちょっと一言

先日は熊日総合美術展において奨励賞一席をいただき、現在は洋画に熱中している状態です。戦後生れの、ハシリですが何でもやってみようと趣味を広げましたが、そろそろ落ち着いて、1つ2つにしほりたいものです。

経 歴

昭和39年3月 済済齋卒業

昭和40年4月 神奈川歯科大入学

昭和46年3月 同上卒業

昭和46年5月 北歯科勤務

昭和48年5月 現在地にて開院

昭和49年10月 東歯解剖学教室研修生

家族の紹介

妻 貞子 昭和23年生 歯科医師

母 千春 大正10年生 書道師範



氏 名 浜 坂 浩 昭和21年7月21日生

自 宅 熊本市水道町12番20号 (TEL) 54-8547

診療所 〃 8番4号 (TEL) 54-2133

趣 味

ヨット、アマチュア無線、ドライブ

ちょっと一言

歯科医療の水準が上り、保険でもそれを認めるきざしがある事は、歯科医師の地位の向上にとって好ましい事だと思います。

経 歴

昭和40年3月 マリスト学園高校卒業

昭和46年3月 大阪歯科大学卒業

昭和47年8月まで大阪にて勤務

昭和47年9月 帰熊して現在に至る

家族の紹介

妻 重允子 昭和25年12月29日生



家族の紹介

父 久嗣 75才

母 政子 65才

妻 葉子 23才

氏名 富田 久之 昭和22年1月24日生

自宅 熊本市本荘6丁目17-27

(TEL) 64-0938

診療所 同上 (TEL) 64-0938

趣味

ゴルフ、マージャン、読書

ちょっと一言

近々、二世誕生の予定。頑張らなければ！

経歴

昭和46年3月 九州歯科大学卒

昭和46年4月 現在地にて開業



氏名 中西 一夫 昭和22年10月13日生

自宅 熊本市菅原町11-28

(TEL) 64-3987

診療所 熊本市健軍2丁目1-1

(TEL) 67-7808

趣味

少林寺拳法

ちょっと一言

ゴルフを始めましたが、球がまっすぐ飛びません。目下100を切ることを目標に頑張っております。

経歴

熊本高校

愛知学院大

貿易センター小林歯科

新東京ビル歯科

家族の紹介

妻 富江 昭和24年生

子 道子 昭和52年生



昭和49年4月 静岡中島歯科医院勤務

昭和51年8月 鮎田町並建にて開業

家族の紹介

妻 和枝 27才

長男 忠臣 3才7ヶ月

次男 尚武 7ヶ月

妹 好子 26才

氏名 赤城 公德 昭和23年3月17日生

自宅 熊本県鮎託郡鮎田町並建 534

(TEL) 09622-7-2337

診療所 熊本県鮎託郡鮎田町並建 534

(TEL) 09622-7-2337

趣味

ゴロ寝

ちよっと一言

忍耐

経歴

昭和48年3月 神奈川歯科大卒

昭和48年4月 神奈川歯科大学保存科勤務



昭和49年5月 名古屋市岡戸歯科勤務

昭和50年1月 熊本市渡辺歯科勤務

昭和52年4月 現在地において開業

家族の紹介

父 敏衛 56才

母 光子 53才

妻 哲子 28才

長男 裕 昨年11月19日に誕生

氏名 古賀 明 昭和23年4月4日生

自宅 熊本市出水1丁目7-52

(TEL) 64-9006

診療所 同上

(TEL) 64-8351

趣味

ゴルフ、麻雀、卓球

ちよっと一言

開業医としてやっとな年、父親としてやっとな3ヶ月。両方ともまだよちよち歩きです。

皆様のご指導をよろしくお願い致します。

経歴

昭和49年4月 愛知学院大学歯学部卒業



家族の紹介

父 登喜男 大正 2年生
 母 澄子 大正 9年生
 弟 英次 昭和 25年生
 妹 邦子 昭和 30年生

氏名 分山 和男 昭和23年4月8日生
 自宅 熊本市春日1丁目3の6 (TEL)52-7748
 診療所 熊本市出水1丁目2の24 (TEL)72-8019
 趣味

旅行、オーディオ

ちよっと一言

学校歯科医を委任されたので、予防歯科の勉強などを始めたいと思っています。

経歴

昭和48年3月 九州歯科大学卒業
 昭和48年4月 加藤歯科医院勤務
 昭和51年8月より開業現在に至る。



家族の紹介

妻 懐見子 29才
 長男 一公 3才
 次男 賢祐 1才

氏名 三 隅 裕 邦 昭和23年5月27日生
 自宅 熊本市新町1-10-31 (TEL)52-4690
 診療所 同上 (TEL)52-4690
 趣味

ドライブ、釣り

ちよっと一言

仕事半分、趣味半分の生活が出来ればと思っています。今年はゴルフとマージャンを覚えなくては……

経歴

昭和50年 日大歯学部卒業
 卒業後、父と共に診療に従事。



昭和52年8月 現在地にて開業

家族の紹介

夫 宗穂 昭和20年11月18日生 歯科医師

母 千春 大正10年 3月24日生



昭和51年 熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科助手

昭和52年 子飼歯科開業

家族の紹介

父 知 則 昭和 3年生

母 隆 子 昭和 4年生

妻 恵美子 昭和27年生

長女 宏 美 昭和49年生

長男 秀 則 昭和52年生

妹 亮 子 昭和27年生

氏 名 田 島 貞 子 昭和23年9月5日生

自 宅 熊本市渡鹿5丁目15番74号

(TEL) 64-9692

診療所 熊本市竜田町弓削1258

(TEL) 38-5523

趣 味

手芸、自分で作って着るおしゃれを楽しんでいます。

経 歴

昭和42年4月 神奈川歯科大入学

昭和48年3月 神奈川歯科大卒業

昭和48年4月 田島歯科勤務

氏 名 緒 方 孝 則 昭和23年12月11日生

自 宅 熊本市西子飼町4-17 (TEL) 44-9149

(TEL) 43-9041

診療所 同 上

(TEL) 44-9149

(TEL) 45-4848

趣 味

カメラ

ちょっと一言

お陰さまで、開業2年目を迎えました。今後とも皆様の御指導宜しくお願い致します。

経 歴

昭和48年 神奈川歯大卒業

昭和48年 神奈川歯大口腔外科助手



昭和50年2月まで博多の開業医に勤務
昭和50年3月 現在地にて開業

家族の紹介

妻 陽子 昭和27年生
長男 亮 昭和51年生

氏名 友枝和夫 昭和24年2月9日生

自宅 熊本市壺川1丁目11-9

(TEL) 56-7578

診療所 熊本市城東町5-49 全通会館3F

(TEL) 52-0206

趣味

音楽(ハワイアン)、テニス、ドライブ

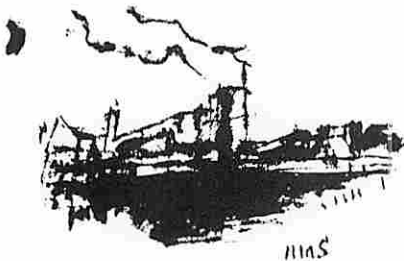
ちょっと一言

理想と現実の谷間に入り込んで5年たちました。

今後とも諸先輩方の御指導をお願いします。

経歴

昭和48年3月 九州歯科大学卒業





会 務 報 告

昭和52年4月～53年4月

年月日	行 事 内 容	年月日	行 事 内 容
52. 4. 5	理事会	52. 6. 29	フッ素全国協議会の伝達報告
11	北部1支部会		広報委員会
14	合同委員会(キャッスル)	7. 4	広報委員会
25	広報委員会	12	学術委員会
26	学術委員会	13	学校歯科委員会
27	会員福祉委員会	16	学術講演会
5. 4	広報委員会	19	医療管理委員会
10	医療管理委員会	20	会員福祉委員会・口腔衛生委員会
11	口腔衛生委員会	22	理事会
12	広報座談会・学術委員会	23	バレーボール大会
14	学校歯科委員会	24	歯科助手研修会
16	会員福祉委員会	26	医療管理委員会
20	口腔衛生委員会	27	学校歯科委員会
22	レクレーション、三井グリーンランド	28	医療管理委員会
25	理事会	8. 8	社保委員会
26	医療管理委員会	10	口腔衛生委員会
30	広報委員会	17	学校歯科委員会
6. 4	歯の衛生週間 ※4日～10日	18	矯正打合せ
5	歯の祭典	19	救急医療協議会
10	社保委員会	22	広報委員会
14	学術委員会	23	北部1支部会
15	北部1支部会	25	映写会あと学術委員会、医療管理委員会
16	理事会、矯正打合せ	26	理事会
19	歯科補助者研修会	30	矯正打打合せ
23	映写会	9. 5	広報委員会
24	会員福祉委員会	8	学術委員会

年月日	行 事 内 容	年月日	行 事 内 容
52. 9.12	広報委員会	52.12.22	小島・川尻支部会
13	広報委員会	29	広報委員会
14	学校歯科委員会	53. 1.12	学術委員会
16	理事会	19	医療管理委員会
17	学術講演会	20	会員福祉委員会・口腔衛生委員会(県合同)
20	監 査	23	理事会
21	社保委員会	24	社保委員会(県合同)
22	映写会あと学術委員会、医療管理委員会	25	確定申告説明会
27	代議員会	26	広報委員会
28	学校歯科委員会	28	社保説明会(東部1～4・中央)
29	口腔衛生委員会	29	社保説明会(南部・西部)
10. 1	税務講演会		社保説明会(川尻・小島・北部1～2)
10	広報委員会	2. 4	懇親パーティー
20	理事会	7	予 算
24	学校歯科口腔衛生委員会	8	広報委員会
26	北部1支部会	13	予 算
27	広報委員会(県合同)	14	医療管理委員会
28	学術委員会	15	広報・会員福祉合同委員会
29	広報委員会	21	理事会
11.11	会員福祉委員会・医療管理委員会	22	学術委員会
14	理事会	24	点数改正説明会(南部・東部1)
18	広報委員会	27	点数改正説明会(北部1・川尻)
21	広報委員会		広報委員会
22	社保委員会・学術委員会	28	点数改正説明会(東部4・南部)
12. 6	社保委員会	3. 1	点数改正説明会(北部2・小島)
7	広報委員会	2	点数改正説明会(東部2・3)
9	中央支部会	3	点数改正説明会(中央)
12	北部1支部会・東部2支部会	4	広報委員会
13	東部1支部会・東部3支部会	7	監事監査
14	南部東部4支部会	9	広報委員会
15	会員福祉委員会	10	医療管理委員会
16	理事会	13	広報委員会・医療管理委員会
17	税務講習会	14	学術委員会・フッ素塗布追加実施
18	郡市会長会議	16	理事会
19	西部支部会	17	学術委員会
20	北部2支部会	24	代議員会

庶務報告

昭和53年2月28日現在

- (1) 現在会員数 212名
一般会員 177名
親子会員 15名
終身会員 17名
勤務会員 3名

(2) 退会者(53年3月より)

永井 晴彦 熊本市坪井5丁目1の61

(3) 物故者(52年3月より)

○自宅

大島 巖	熊本市坪井2丁目5番9号
北 藤 松	◇ 水前寺2丁目18の30
増田 二郎	◇ 船場町1丁目41
奥村 康也	◇ 上林町1番19号
井手 浩二	◇ 東野1丁目6番4号
渡辺 美誠	◇ 世安町531
古川 利之	◇ 水前寺公園4番27号

昭和52年度熊本市歯科医師会才入才出現況

収入額 17,619,271 支出額 10,181,540 残額 7,437,731

(才入の部)

昭和53年2月28日現在

款	項	費 目	予 算 額	調 定 額	収入済額	未 収 額	備 考
1		会 費	6,684,241	9,352,802	9,414,802	38,000	
	1	均 等 割	1,890,000	1,872,000	1,934,000	38,000	(未納者)田島、松原、北、奥村、松本、青木、永野
	2	保険診療負担金	3,894,241	4,180,802	4,180,802		診療報酬 1,000
	3	入 会 金	900,000	3,300,000	3,300,000		新入会 11名
2		寄 付 金	1,094,465	1,126,470	1,126,470		簡易保険 5
3		過年度会費	0				7
4		雑 収 入	2,185,478	2,875,467	2,875,467		
	1	預 金 利 子	70,000	95,288	95,288		富士銀行、肥後銀行
	2	雑 入	2,115,478	2,780,179	2,780,179		生命保険事務手数料
5		前年度繰越金	2,037,359	4,202,532	4,202,532		
		計	12,001,543	17,557,271	17,619,271		

(才出の部)

款	項	費 目	予 算 額	支出済額	予算残高	備 考
1		事 業 費	5,240,000	4,760,067	479,933	
	1	学 術 委 員 会 費	850,000	787,010	62,990	学術講演会 河辺清治講師 371,580、浦郷篤史講師 198,900
	2	口腔衛生委員会費	600,000	544,990	55,010	正しい歯のコンクール 61,000、フッ素塗布 無料検診 137,350 243,440
	3	医療保障委員会費	450,000	203,770	246,230	高知出張旅費 88,860
	4	医療管理委員会費	120,000	165,950	△ 45,950	税務講演会 44,900
	5	広報委員会費	1,350,000	1,359,535	△ 9,535	会誌 24号～26号印刷 867,600
	6	会 員 福 祉 費	1,300,000	1,285,900	14,100	レクリエーション 218,250、新年パーティ 810,300 バレーボール大会 152,500
	7	学校歯科委員会費	450,000	315,232	134,768	歯みがき訓練 74,232、ビデオセト1コ購入 10,000
	8	医 政 費	120,000	97,680	22,320	
2		事 務 費	4,894,099	3,932,627	961,472	
	1	渉 外 費	500,000	220,725	279,275	
	2	俸 給	1,908,036	1,690,200	217,836	
	3	諸 給 与	994,063	1,080,028	△ 85,965	
	4	旅 費	250,000	25,600	224,400	
	5	需 用 費	700,000	763,474	△ 63,474	電話代、通信費他
	6	事 務 所 費	72,000	66,000	6,000	
	7	備 品 費	400,000	30,000	370,000	ストープ 18,200、シャープ計算機 11,800 (時計、応接セツト 3月購入予定)
	8	雑 費	70,000	56,600	13,400	
3		会 議 費	1,228,000	1,060,500	167,500	理事会旅費、車代他、会議費
4		職員厚生費	372,442	346,096	26,346	
	1	退 職 積 立 金	180,000	165,000	15,000	
	2	厚 生 費	192,442	181,096	11,346	
5		予 備 費	267,002	82,250	184,752	
		計	12,001,543	10,181,540	1,820,003	

昭和53年度熊本市歯科医師会才入才出予算案

(才入の部)

款	項	費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		備 考
					増	減	
1		会 費	8,378,514	6,684,241			
	1	均 等 割	1,903,000	1,890,000	13,000		一般会員 10,000 親子会員 5,000 終身会員 4,000 勤務会員 10,000
	2	保険診療負担金	5,275,514	3,894,241	1,381,273		保険診療報酬 $\frac{1}{1,000}$
	3	入 会 金	1,200,000	900,000	300,000		入会金 300,000
2		寄 付 金	1,103,340	1,094,465	8,875		簡易保険割戻金 $\frac{5}{7}$
3		過年度会費	0	0			
4		雑 収 入	2,457,744	2,185,478			
	1	預 金 利 子	73,872	700,000	3,872		富士銀行、肥後銀行
	2	雑 入	2,383,872	2,115,478	268,394		
5		前年度繰越金	5,506,855	2,037,359	3,469,496		
計			17,446,453	12,001,543	5,444,910		

(才出の部)

款	項	費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較		備 考
					増	減	
1		事 業 費	8,050,000	5,240,000			
	1	学 術 費	1,500,000	850,000	650,000		学術講演会 3回予定、ビデオ医学講座 社保委員会と合同の社保用語解説説明会
	2	口 腔 衛 生 費	700,000	600,000	100,000		母と子のよい歯のコンクール 秋の無料検診、幼稚園弗染塗布
	3	医 療 保 障 費	600,000	450,000	150,000		社保指導
	4	医 療 管 理 費	600,000	120,000	480,000		
	5	広 報 費	1,800,000	1,350,000	450,000		会誌発行
	6	会 員 福 祉 費	1,600,000	1,300,000	300,000		レクレーション、新年会
	7	学 校 歯 科 費	600,000	450,000	150,000		歯みがき訓練
	8	各種委員会費	500,000		500,000		
2		医 政 費	1,500,000	1,200,000	300,000		
		事 務 費	5,291,896	4,894,099			
	1	渉 外 費	630,000	500,000	130,000		
	2	俸 給	1,776,896	1,908,036		131,140	
	3	諸 給 与	1,013,000	994,063	18,937		職員賞与、超勤手当
	4	旅 費	300,000	250,000	50,000		
	5	需 用 費	1,000,000	700,000	300,000		通信費、電話代、文具代他消耗品費
	6	事 務 所 費	72,000	72,000			6,000×12ヶ月
	7	備 品 費	400,000	400,000			
3		雑 費	100,000	70,000	30,000		
		会 議 費	3,228,000	1,228,000	2,000,000		
		職 員 厚 生 費	660,000	372,442			
4		退 職 積 立 金	360,000	180,000	180,000		3,000×12ヶ月
		厚 生 費	300,000	192,442	107,558		保険料
5		予 備 費	216,557	267,002		50,445	
計			17,446,453	12,001,543	5,626,495	181,585	

昭和52年度熊本市歯科医師会 共済会才入才出現況

収入額 3,460,245 支出額 2,030,000 残高 1,430,245 昭和53年2月28日現在

才入の部	金額	才出の部	金額
共済会費負担金	2,490,000	弔慰金(故北 藤松先生)	300,000
初回金	16,000	〃(故増田 二郎先生)	300,000
利息	16,700	〃(故奥村 康也先生)	300,000
前年度繰越金	937,545	〃(故井手 浩二先生)	300,000
		〃(故渡辺 美誠先生)	300,000
		〃(故古川 利之先生)	300,000
		〃天村美堯先生御尊父様	20,000
		〃吉井洋一先生御尊父様	20,000
		〃〃御母堂様	20,000
		見舞金 木庭 了先生	20,000
		〃塩見国太郎先生	20,000
		〃渡辺富美雄先生	20,000
		〃増田 二郎先生	20,000
		花環代	90,000
計	3,460,245	計	2,030,000

熊本市歯科医師会 財産(備品)目録

種 別	数 量	種 別	数 量
書 類 冊	6	オーバーヘッド プロジェクター	1
書 類 立	4	ビデオカセット VO 1720	1
事務用机	2	扇 風 機	1
〃 い す	2	電 話 器	1
金 庫	1	冷 蔵 庫	1
テ ー ブ ル 白	4	ハ ガ キ 用 膳 写 機	1
〃 茶	2	チ ェ ク ラ イ タ ー	1
会 議 用 い す	12	掃 除 機 (手動)	1
応 接 セ ッ ト	1	印 鑑	
ロ ッ カ ー 2人用	1	書 籍	
ツ イ タ テ	2	傘 立	1
ラ ジ オ	1	ス ト ー プ	2
カ セ ッ ト	1	ワ イ ヤ レ ス マ イ ク	1
時 計	1	電 卓	1



新 入 会 員 紹 介



氏 名 松 本 辰 實 大正12年5月24日生
自 宅 熊本市帯山4丁目19-19 (TEL) 81-8669

趣 味 スポーツ 吟詠

好きなことば

団 結

経 歴

昭和20年9月 福岡県立医学歯学専門学校卒業

昭和21年4月 熊本県天草郡久玉村開業

昭和28年1月 長崎県大村市開業

昭和29年1月 自衛隊久留米部隊に入隊以后転々として各地の
自衛隊部隊に勤務

昭和52年8月 自衛隊熊本地区病院に勤務

昭和53年7月 開業の予定

家族構成

松本百合子 大正15年10月7日生 妻

松本たみ子 昭和29年6月14日生 長女

入会年月日

昭和52年10月13日入会届出



氏 名 北 克 己 昭和19年4月2日生
 自 宅 熊本市水前寺2丁目18-30 (TEL)83-0778
 診療所 熊本市下通2丁目3-1(清田ビル2階)
 (TEL)53-3828

趣 味 酒、ゴルフ、ダンス、マージャン

好きなことば

Professional

経 歴

昭和52年3月 日本大学松戸歯学部卒業

昭和52年5月 福岡 北歯科医院勤務

昭和52年11月 現在地に開業

家族構成

北 満寿美 妻
 北 三恵子 昭和 年12月26日生 長女
 北 夕貴子 昭和 年 4月14日生 次女

入会年月日

昭和52年11月14日入会届出



氏 名 永 野 秀 雄 昭和21年9月18日生
 自 宅 熊本市清水東町2の80 (TEL)44-8922
 診療所 同 上 (TEL)44-5224
 趣 味 釣り

昭和40年 3月 鹿児島ラ・サール高校卒業

昭和47年 3月 九州歯科大学卒業

昭和47年 5月 健軍緒方歯科勤務

昭和50年11月より父と診療に従事

家族構成

昭和25年11月19日生 妻 孝子
 昭和49年 1月26日生 長男 修
 昭和50年11月19日生 長女 薫

入会年月日

昭和52年12月15日入会届出

歯科関係雑誌目次一覧

歯界展望 Vol 51 No.1 1978年1月

□カンファランス

顎関節をめぐる歯科臨床の諸問題	司会／河村洋二郎 安藤正一・池田克巳・伊藤学而・大石忠雄・久保田康耶・腰原 好・斎藤 毅 清水正嗣・杉浦正巳・統 肇彦	5
カラーグラフ 顎関節内視鏡の臨床応用	大西 正俊	51
学 死 歯の動きに伴う歯槽骨変化の組織化学 (上)	須賀 昭一	59
日本における今後の小児歯科のために	山下 浩	71
管理と処置の体系としての歯科矯正学	井上 直彦	81
臨 床 歯周外科Ⅳ 手術術式<下・完>	伊藤輝夫ほか	91
ノン-T2 アマルガム修復物辺縁にみられた 1年後の変化	奥田礼一ほか	103
陶材焼付冠の酸処理について	関 純男ほか	113
流し込みレジン の術式と精度	日野 恬男	123
笑気吸入鎮静法の応用—4心身障害者治療での応用	酒井 信明	131
正しい科学論争の進め方—フッ素論争「飯塚メモ」に答える	高橋 眺正	143
わが国の唇顎口蓋裂医療の問題点—5>	座談会／わが国の唇顎口蓋裂医療を考える 一色信彦・高橋庄二郎・福原達郎・宮崎 正	135
別 室 「歯科医療社会を取り巻く問題について考える」<7>	日本語の乱れと外来語の氾濫—なぜ歯科医学書と 論文に外国語を書かねばならないのか—	正木 正 151
歯科法律学セミナー 1	義歯の所有権—歯科診療費請求との関係—	門脇 稔 159
歯科医のわが子へのむし歯予防<9・完>	松見智恵子	165

歯界展望 Vol 51 No.2 1978年2月

ワイド企画 小児の咬合育成 1	井上直彦・沓沢満夫 桑原未代子・与五沢文夫	201
連続座談会 1 小児の咬合育成を考える		
わが国の小児歯科疾患の原状とその問題点		
—小児の咬合育成の立場から—	神山紀久男	211
顎顔面頭蓋の成長	鈴木 祥井	221
咬合の発育<上>	佐藤 博	233
対 談／反対咬合の診断と治療	伊藤学而・野間歌子	241

学 苑 歯の動きに伴う歯槽骨変化の組織化学 (中)	須賀 昭一	251
カラーグラフ 無口蓋義歯の調製	犬飼 啓元	269
小児のオーバードンチャー	藤井 仁毅	279
臨 床 補綴領域における tissue conditioner の応用	佐藤隆志ほか	293

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

笑気吸入鎮静法の応用—5 (完)

笑気吸入鎮静法の最近の研究から 久保田康耶 ... 303

水道フッ素化と癌—Yiamouyiannis & Burk論文に対する批判

—高橋眺正氏の反論に対して— 飯塚 喜一 ... 311

シンポジウム「広い視野からみたフッ素の諸問題」を聞いて 梅村長生・川崎安則 ... 321

座 談 会 むし歯予防の実際とその普遍化<上>

..... 笠井仁治・中里滋樹・松井一成・丸森賢二 ... 327

講 座 老化・骨・カルシウムとその周辺 (上)

—老化と骨変化— 藤田拓男 ... 337

別 室 シリーズ／歯をよむ 11・完

歯の連関とその因子分析 向井 敏 ... 343

三叉神経領域の痛みについての研究の動向

—第27回国際生理科学会議のシンポジウムから 山本 隆 ... 357

歯科法律学セミナー 2

患者の悪意の錯誤—歯科診療契約と請求権— 門脇 稔 ... 363

窓 197 集会記録 247・368 厚生省だより 292

抄録 198 編集後記 390

歯界展望 Vol 51 No.3 1978年3月

—特 集／これからの歯科医療—若い世代はこう考える—

山崎 芳昭・葭内 純史・小杉 忠・水野 正哉・押見 一・

佐藤 秀夫・松宮 剛・高山 利夫・栗田 省吾・寺沢 俊明・

岩間總一郎・岩崎 恵・神馬 知明・水野 純・石村 均・

中島 章夫・松本 仁志・辛嶋 崇・九良賀野繁雄・宮城 正廣 395

学 苑 歯の動きに伴う歯槽骨変化の組織化学 (下) 須賀昭一 ... 417

ピエゾ電気—微小電流による骨誘導の研究 鈴木弘之 ... 433

カ ラ ー グ ラ フ 子供の歯ブラシ—自分で使える形態を求めて—

..... 横浜歯科臨床座談会／子供の歯ブラシ研究会 ... 445

臨 床 根分岐部病変とその処置に対する考察 長谷川紘司ほか ... 461

プラスチックへの“めっき”

—その補綴臨床への応用— 浜田泰三ほか ... 475

臨床ヒント わたくしの開発した誤飲防止器具 榎本貞司 ... 485

座 談 会 むし歯予防の実際とその普遍化<下>

..... 笠井仁治・中里滋樹・松井一成・丸森賢二 ... 491

ワ イ ド 企 画 小児の咬合育成 2

連続座談会Ⅱ 小児の咬合育成を考える 井上直彦・沓沢満夫

桑原未代子・与五沢文夫 ... 501

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

咬合の発育<中>	佐藤 博 ... 509
咬合育成における保険の位置づけ	金田一純子 ... 517
咬合誘導一連続抜去一	大下正純ほか ... 523

講	座	老化・骨・カルシウムとその周辺 (下)	
		ー老化・カルシウム代謝。内分泌ー	藤田拓男 ... 533
別	室	ある対話 " Sympathy と Empathy "	片山恒夫 ... 539
		歯科行政から歯学教育へ	末高武彦 ... 547
わが国の唇顎口蓋裂医療の問題点ー6>			
		補綴治療における問題点	大山喬史 ... 551
歯科法律学セミナー 3			
		歯科医とショック死一問診をめぐる法律関係ー	門脇 稔 ... 565
解	説	<速報> 保険点数改正の要点	571

日本歯科評論 1978年1月

歯の挺出について①	水谷 紘/石幡伸雄 ... 25
<ビジュアル・シリーズ> やさしい咬合の話⑥	飯塚哲夫 ... 35
<シリーズ・歯学教育を考える> 私立歯科大学協会について	白数美輝雄 ... 49

第 14 回日本歯科医学会総会特集

開会講演	「人間の生涯教育」を聞いて ... 66
総会講演	「予防歯科学の新思潮」を聞いて ... 69
総会講演	「日本人の反対咬合」を聞いて ... 72
総会講演	「抗菌性抗生物質および制癌剤療法に関する問題点」を聞いて ... 74
総会講演	「小児のう蝕抑制について」を聞いて ... 76
総会講演	「歯科医学と免疫学」を聞いて ... 80
総会講演	「われわれ歯科医師は兎唇・口 蓋裂にどのようにとりくむべきか」を聞いて ... 83
特別講演	「矯正臨床における医療過誤について」を聞いて ... 84
総会シンポジウム	「保存治療のゆくえ」を聞いて ... 91
総会シンポジウム	「歯周治療のゆくえ」を聞いて ... 96
総会シンポジウム	「咬合治療のゆくえ」を聞いて ... 103
特別シンポジウム	「歯と痛み」について ... 109
国際講演	「顎顔面外科の発達における歯科医学の役割」を聞いて ... 118
国際講演	「歯科教育について」を聞いて ... 120
国際シンポジウム	「歯科医療制度の現状と将来」を聞いて ... 123
閉会講演	「身辺の日本語」を聞いて ... 128

テ ー プ ル ク リ ニ ッ ク

基礎	136
----------	-----

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

予防歯科	140
歯科放射線	148
歯科材料・器材	152
管理	160
心障（児）者	164
麻酔	166
小児歯科	172
矯正	176
歯内療法	181
歯冠修復	184
歯周療法	190
口腔外科	194
補綴	200
歯と健康展	「歯と健康展」を見て … 210
第4回日本デンタルショー	「第4回日本デンタルショー」見聞記 … 212
ある思い出（完）.....	長谷川俊夫 … 221
歯科医院経営の計数管理実務④	辻中 保夫 … 228

日本歯科評論 1978年2月

局部義歯の基本を考える①	豊永美津糸 … 25
歯の挺出について②	水谷 紘／石幡伸雄 … 42
<トピック>	
口腔領域における ⁶⁷ Ga スキャンの意義について.....	東 与光 … 57
コンポジット冠の臨床の実際	後藤 譲治 … 77
有限要素法による咬合力と歯周組織の力学挙動に関する基礎的研究	末次恒夫／鬼頭政勝 … 85
新接着性修復材「クリアフィルボンドシステムF」の臨床的用法	総山孝雄ほか … 101
<ビジュアル・シリーズ>	
やさしい咬合の話⑦	飯塚 哲夫 … 119
<シリーズ：歯学教育を考える>	
歯科医学教育におけるビデオ・システムの活用	久米川正好 … 132
歯科診療室における歯科衛生士の生き方	高山 陽子 … 149
<Operator & Laboratory>	
窩縁傾斜の処理法について①	席田克巨／難波 肇 … 162
<留学の地から>	
ヨーロッパの歯科事情	岡本 浩 … 165
マイアミで開かれた国際歯科学士会総会	佐藤 貞勝 … 174
ある思い出①	長谷川慶蔵 … 185
歯科医院経営の計数管理実務⑤	辻中 保夫 … 194

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

日本歯科評論 1978年3月

<シリーズ：総義歯の臨床Part I>

粘膜の調整——旧義歯による影響をどうするか……………林都志夫／長尾正憲／平井敏博 … 25

<シリーズ：総義歯の臨床Part II>

総義歯のための外科的処置……………根本一男／藤田 靖 … 33

局部義歯の基本を考える②……………豊永美津糸 … 41

咬合記録における後方基準点について……………羽賀通夫ほか … 59

顎関節症の心身医学的療法……………杉浦正巳ほか … 72

印象材と使用上の注意事項……………高橋 重雄 … 83

小児歯科で考慮すべき口腔生理学的諸問題……………河村洋二郎 … 93

<ビジュアル・シリーズ>

やさしい咬合の話⑧……………飯塚 哲夫 … 109

<シリーズ：歯学教育を考える>

教育における評価の新しい役割……………藤田 恵蔵 … 131

高周波電気メスを用いた加圧根管充填法……………須賀 康夫 … 139

重症心身障害児（者）センターにおける口腔衛生管理……………為井恵子／石倉節子 … 145

<Operatory & Laboratory>

個人用ゴシックアーチ・トレーサの作り方と1臨床例……………太田 勝美 … 154

<留学の地から>

グラーツ大学顎外科の見たまま……………埜口五十雄 … 157

アルゼンチンとブラジルの歯科事情①……………川嶋 英夫 … 167

アメリカの医師優遇税制……………田口 国雄 … 179

ある思い出②……………長谷川慶蔵 … 187

歯科医院経営の計数管理実務⑥……………辻中 保夫 … 196

デンタル・ダイヤモンド Vol 3 No 1 1978年1月

座談会 GHQと戦後日本の歯科医療……………関 敏、伊丹一男、榎 恵、長谷川慶蔵 … 18

白歯ブリッジの要点……………羽賀 通夫 … 32

咬合の理論と実際③<多数歯欠損の場合>……………関根 弘、安藤昌男、高久 遏 … 40

デンタル・サーベル抄録……………56

マラソン審理のロッキード裁判……………佐藤 悠 … 72

抗生物質とイオン導入剤の使い方と製剤……………高宮達治、石橋真澄 … 74

その誤診にこの誤薬③……………田村 豊幸 … 76

わたしの処方⑩鎮痛剤としての抗うつ剤……………都 温彦 … 78

焼付ポーセレンについて……………金竹哲也、斎藤季夫ほか … 80

夫婦間における贈与と課税について……………大沢幸之助 … 98

質疑応答 少数歯欠損における遊離端義歯の設計

水銀が床にこぼれた場合の処理法

X線自動現像機の機種選定規準

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

歯列矯正処理後にみられるう蝕について	
調整率75%の根拠は何か	
妻を専従者とした場合の相続税と贈与税	
簡易裁判所から調停呼出しについて	
従業員の診断チェック	107
未来を結ぶ青函トンネル	宮城倉次郎 ... 118
脾のはたらきとくに糖の代謝を中心に	清水 直容 ... 124
上方歯科医人伝(その1) 佐治職伝	京極 三朗 ... 130

デンタル・ダイヤモンド Vol 3 No.2 1978年2月

座談会 どうするか跡継ぎ問題	大塚晴惟、石塚勇次郎、森山京介、葛井 清 ... 18
補綴の前準備としての小矯正	木下善之介 ... 35
根管充填についての理論と実際①	浅井康宏、永沢 恒、黒須一夫 ... 47
デンタル・サーベル抄録	56
消費者にとって「円高」って何?	菅原 浩 ... 72
直接歯髄覆罩剤	池田正臣、木村光孝 ... 74
その誤診にこの誤薬④	田村 豊年 ... 76
わたしの処方 顎関節症・慢性顎関節炎	岡 伸光 ... 78
硬質レジンについて	宮岡健太郎、斎藤季夫ほか ... 80
相続税における配偶者控除について	大澤宰之助 ... 98
質疑応答 遊離端義歯の義歯床の沈下	
磁力を応用した金属の歯科補綴物への利用	
笑気アナルゲジアについて	
労働衛生コンサルタント(歯科)とは	
建築中の建物の相続税評価	
市と休日応急診療を契約した場合の課税	
診療所の改造と名称変更した場合の税務処置	
他人に知られたくない遺言書の作成方法	
亡父の遺産分割と手続き	
自動車事故の示談による損害賠償請求	116
成田空港・傷だらけの離陸	松浦 康彦 ... 118
水・電解質の代謝と腎	清水 直容 ... 124
上方歯科医人伝(その3) 堀内徹伝	京極 三朗 ... 130

デンタル・ダイヤモンド Vol.3 No.3 1978年3月

座談会 30年間歯科医療をわが道として	
.....水野 肇、岡田美穂子、後藤富貴子、須藤知恵子、原喜久江 ...	18
補綴の前準備としての小手術	滝川富雄ほか ... 35

歯 科 関 係 雑 誌 目 次 一 覧

根管充填についての理論と実際②	永沢 恒、浅井康宏、黒須一夫 ...	40
デンタル・サーベル抄録		56
成長率7%はだれのためか	三浦 昭彦 ...	72
根管治療用具消毒剤の使い方と製剤	山崎真隆、堀内 博 ...	74
その誤診にこの誤薬⑤	田村 豊幸 ...	76
わたしの処方 顎関節症および類似疾患	小谷 朗 ...	78
アマルガムについて	金竹哲也、斎藤季夫 ...	80
妻の老後の生活保障と遺言制度の活用について	大澤宰之助 ...	98
質疑応答 オーバーデンチャーの注意事項、予後、耐久性		
フッ化物溶液の歯面塗布の場合の安全量		
フレオンガスの人体への影響		
たな卸はなぜ必要なのか		
借地に増改築する場合の承認と許可		
歯科医の疲労と自覚症状		107
インターフェロンはガンの特効薬か?	長沢 光男 ...	118
免疫	清水 直容 ...	124
上方歯科医人伝(その4)中島達也伝	京極 三朗 ...	130

編集後記

年が明けて、2月から僅かながら医療費が値上げされてからは一部において差額徴収、又歯内療法において新設項目と、保険診療に気を取られておりましたが、最近、しきりに我々の神経を刺激する問題に円高があるようです。この問題は大きく国際経済に関連して而も資源の少ない我が国にとっては極めて重大な関心を寄せざるを得ないのではないのでしょうか。又この事が我が歯科界にとってどのように影響を及ぼして来るのか、気がかりでなりません。

本年は熊本県歯科医師会も創立70周年を迎え、6月にはその記念式典も開催される予定です。私は卒業して早や14年、今だに国家試験の夢を見ることがあります。今年も我々の後輩達が国家試験の時期に来ていると思いますが、国民の歯科医療確立のために優秀な歯科医師が誕生せんことを大いに期待致しております。

菊池英一 記

熊本市歯科医師会会報

第 27 号

発行日 昭和 53 年 4 月 25 日発行

発行所 熊本市歯科医師会

熊本市坪井 2 丁目 3 番 6 号

TEL (43) 6669

発行
責任者 緒 方 益 夫

印刷所 株式会社 太 陽 社

熊本市新大江 2 丁目 5 - 18

TEL (66) 1251